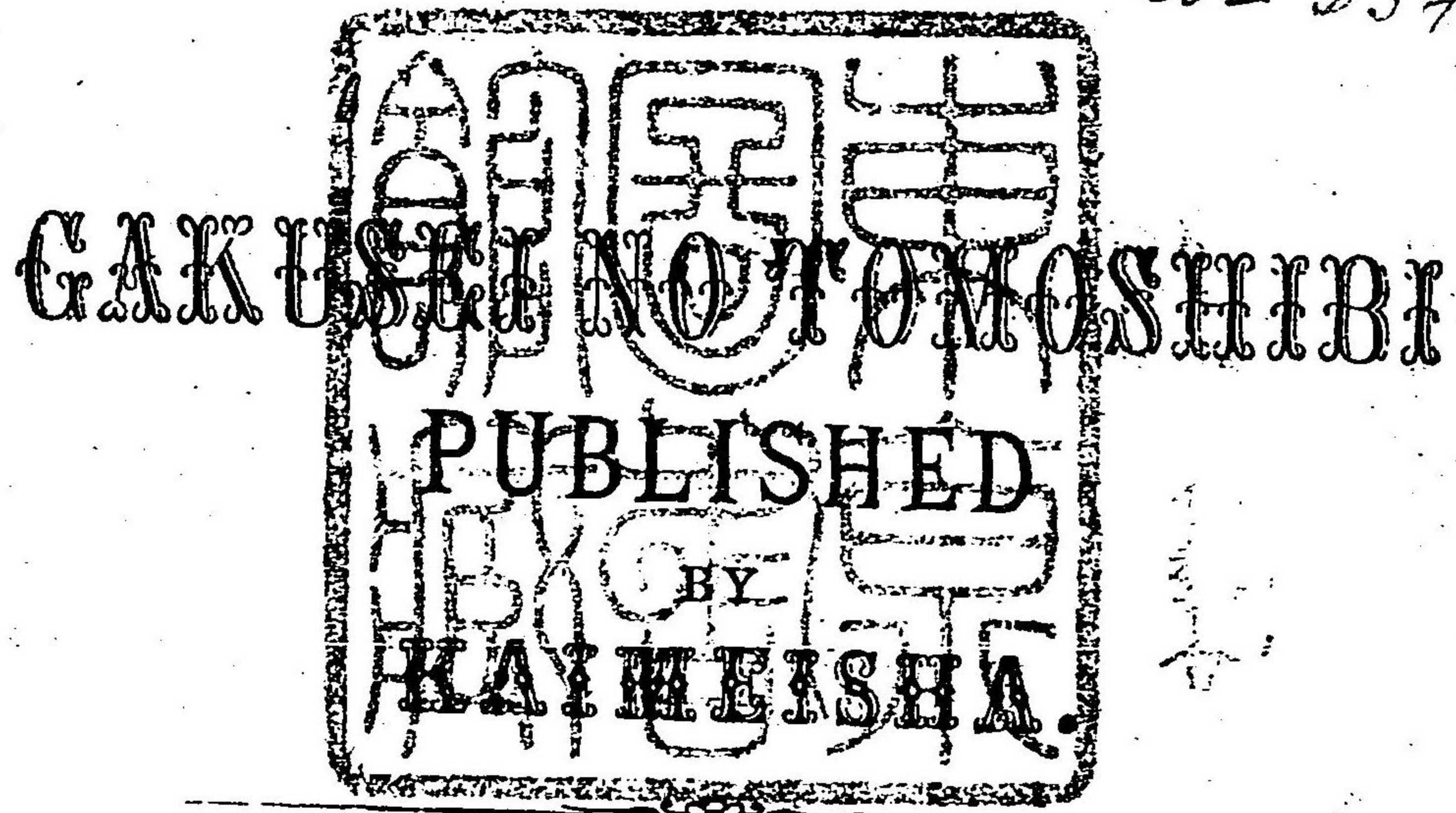


特26

334

No 6340



文學士

坪内雄藏序
宮武南海著

學生之燈

完

東京開明社印行

此書乃... 益元了



學生之燈序

學海ハ黯淡タリ世路ハ杳茫タリ此荒漠タル境
ニタケテ前ニ經驗ト云フ先導ナク後ヘニ反省
ト云フ後見ナク只管目前ノ事物ノミヲ觀テ一
躍シテ所望ヲ達セント試ムルハ世間ノ少年ノ
習ヒナラズヤサレバ其血氣ノ盛ンナルニ當リ
テハ客氣ト强健トヲ賴ミニシテ進ムニ勇ナル
ヲ盲猪ノ如ク或ハ過飲暴食ニ攝生ノ道ヲ誤リ
或ハ雲梯ノ工風ナクシテ空中ノ樓臺ニ攀ゲン
ト試ミ幾度カ轉墜シテ悔ユル事ヲ知ラズヤシ

二
テ況ンヤ某ガ言ハレシ如ク「少年ノ時ノ過度ナル所行ハ總テ莫大ノ利子ヲ加ヘテ老後ニ拂フベキ負債ナリ」ナド、ハ曾テ夢ニダモ覺ラザルナリ此ニ於テ乎目的ヲ定メズシテ走り順序ヲ定メズシテ飛ビ空シク人生ノ春ノ花ニ實ヲ結バセズシテ散ラス者多シ遂ニ英國ノ碩學ヲシテ「少年ハ方法ト度量ヲ圖ラズシテ目的ニ向ツテ妄ニ飛ビ手當リ放題ノ主義ヲ持シテアルマシキ方ヘ走り向フ」ト面白カラヌ批評ヲ下サシムルニ至ル豈憾ムベキノ限ナラズヤ南海宮武

君コ、ニ感アリ夙ニ有名ナル私塾ヲ開キテ後進ノ薰陶ヲカメラレシガ此タビ又更ニ少年ノ爲ニ有益ナル論文數篇ヲ草シテ之ヲ「學生之燈」ト名ヅケ世ニ公ニサル、コト、ナリヌ嗚呼此燈ヤ一小冊子タルニ過ザレドモ焉ゾ知ラン其光明ノ及ブ所彼ノ大西洋ノ大燈臺ノ百千里ヲ照ラスニ優レルアルヲ查茫タル學海ノ暗ニタダヨフ者謹ンデ此明燈ノ光ヲアホゲヨ

明治二十年十一月

坪内雄藏識

學生之燈自序

西人稱スルヲアリ曰ク小兒ハ大人ノ父ナリト
此言遽ニ見レバ原因結果ヲ顛倒シタルモノ、
如シト雖モ靜ニ察スレバ微妙ノ金言ニテ大人
ハ小兒ヲ元素トシテ漸々成長シ以テ其大身ヲ
形造リシモノナルヲ形容シタルナリ即チ大人
ハ小兒ヨリ起リシモノナレバ其小兒ハ大人ヲ
産出シタル父トシ見ル可キノ妙理アリテ存セ
リ左レバニヤ佛蘭格林モ亦云ハレタリ小兒ハ
何ノ用ヲモ做スマシ然レモ終ニハ大人トナル

ト是ニ由テ之ヲ觀レバ二十世紀ノ上半期即チ明治三十年後ノ新社會ハ今日ノ青年學生ガ壯老ノ戸主ト成リ以テ之ヲ組織スルモノタルヲ知ル可シ然ラバ將來ノ日本ヲ察スル敢テ想像理論ニ訴フルヲ要セズ唯ダ夫レ今日ノ學生ノ情況ヲ熟察ス可シ其未來ノ社會ヲ推測スル敢テ難キ業ニシモアラザルナリ凡ソ社會ノ盛衰突出ヲ以テ成ルニ非ラズ漸チ以テ成ル者ニシテ其原因甲世ニ起テ其結果乙世ニ熟スル者ナリ即チ世ノ盛ナル盛ナルノ日ニ盛ナルニ非

ラズ蓋シ必ズ由テ起ル所アリ世ノ衰フル衰フルノ日ニ衰ヘズ亦必ズ由テ兆スル所アリ實ニ今後日本社會ノ盛衰消長ハ今日螢雪破窓ノ下ニ啣語ノ聲ヲ發シツ、アル者ノ身上ニ掛レリ青年學生ノ責任亦重シト謂フ可シ先輩ノ既ニ高置位ヲ占メタル者如何ニ其置位ヲ讓ヅルニ吝カナル者ト雖モ十數年ノ後ハ閻魔ノ廳ヨリ新陳交迭ヲ命ズ可シ此時ニ至ラバ今日ノ青年學生敢テ奔走スルヲナク知ラズ識ラズ彼レ取テ代ル者ト爲ラザルヲ得ズ故ニ余輩ハ今日ニ

於テ苟モ青年ノ地位ニ在ル者ハ闔國舉テ學ニ就カンコトヲ希望スルト同時ニ其學ブ所ノ學問ハ高尚ニシテ實益アラシクテ欲スルナリ左ラヌダニ文部學制ノ催ス所氣運風潮ノ赴ク所闔國全州ノ青年翕然トシテ學ニ就クノ盛時ヲ目撃スルニ及ベルハ如何ニモ欣喜雀躍ノ至リナリ嘻々既ニ此需用アリ焉ンゾ其供給書ノ出版ナカラザラン其青年學生學習ノ爲メトテ之ニ供スルノ書籍其出版夥シキコト啻ニ汗牛充棟ノミナラズ殆ンド喜馬拉山ト比肩スルニ至ラン

トスルノ勢ヒアリ豈ニ亦盛ナラズヤ然ルニ凡ソ人心氣運ノ赴ク所動モスレバ常ニ一方ニ偏倚シテ他ニ緊要ノモノアルヲ看過忘失スルノ弊アルヲ免レザルモノナリ即チ其教課書及ビ其教課書ノ目的ヲ以テ著譯出版スル者斯ク多シト雖モ其青年學生ノ方針ヲ指示スル燈書ニ至リテハ殆ンド稀レナリ且ツ偶々其書アルモ信ニ學生ノ燈タルニ足ルノ好書アルナキモノ、如シ是レ豈ニ日本文明ノ一大缺典ナラズヤ余輩之ヲ思フノ日久シ然レモ雜務ノ繁多ナル

ガ爲メ荏苒今日ニ及ブ所近頃稍々寸暇ヲ得タ
レバー小冊子ヲ著ハシ聊カ以テ學生指針ノ燈
ヲ參ラセントス果シテ電氣燈ノ如ク片隅マデ
ヲモ照ラシ以テ學生ノ案内ナスヲ得可キヤ
否ナヤハ本書ノ閱讀旅行ヲ試ミテ後知ラル可
シト云爾

明治二十年十一月

著者識

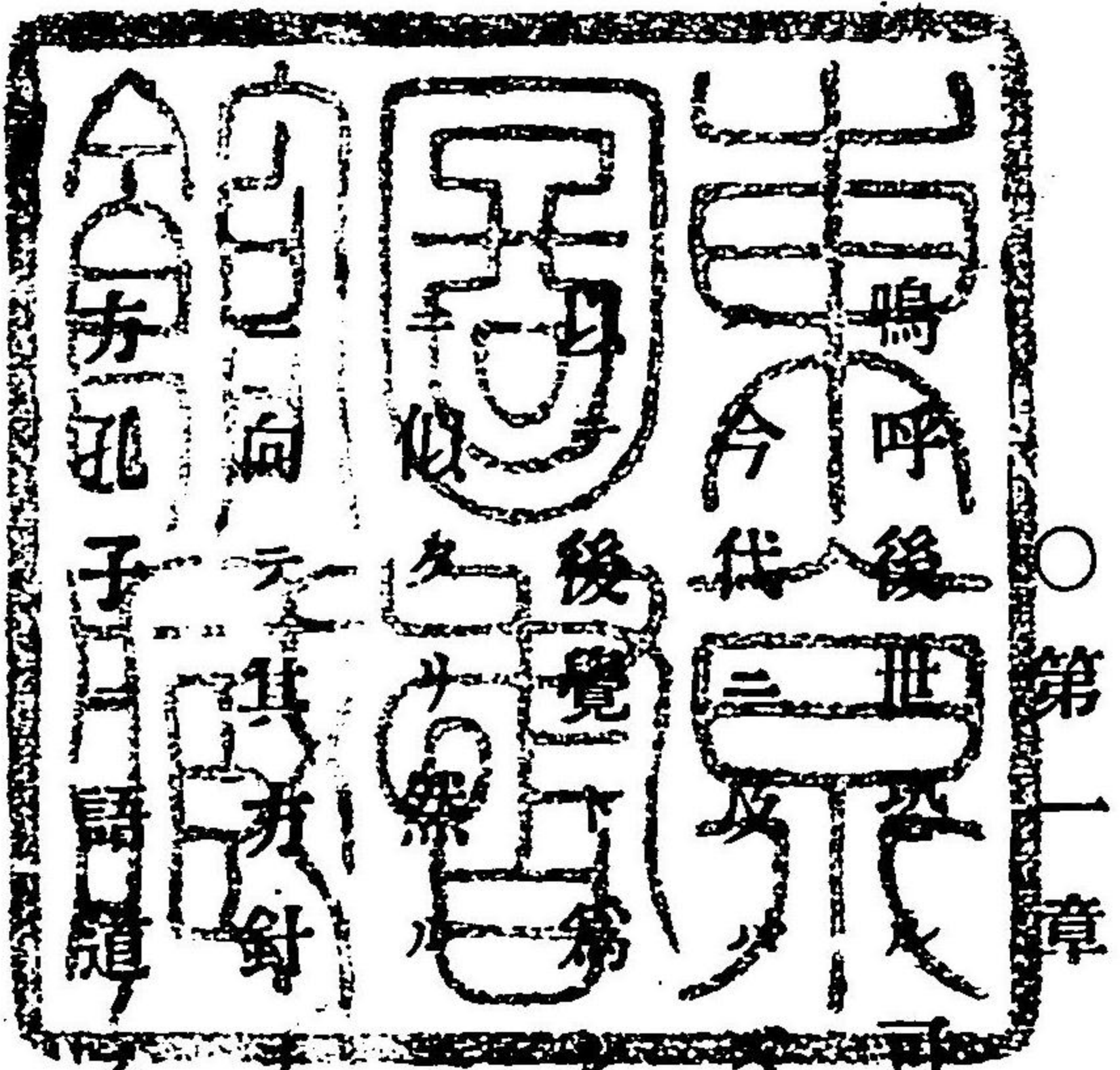
學生之燈

目錄

- 第一章 青年學生ノ交友ニハ異志者ヲ求ム可シ
- 第二章 學生天狗ノ氣ヲ利用スルノ要談
光陰ヲ消費スル養生ハ敢テ守ルニ足ラズ
- 第三章
- 第四章 目的ヲ定ムルノ時機ヲ論ズ
- 第五章 獨學者ノ爲メ聊カ其心得ヲ指教ス
- 第六章 竹學生ト爲レ筈學生ト爲ル勿レ
- 第七章 學問偏ス可キ者アリ又偏ス可ラザル者アリ
- 第八章 讀書ノ心得數件ヲ指教ス

學生之燈

宮武南海著



○第一章

青年學生ノ交友ニハ異志者ヲ求ム可シ
 シ夫レ社會ハ且ツ長シ且ツ學ブ故ニ古昔
 今代ハ又後世ニ若カズ左レハ先達ノ輩ヲ
 後進ノ士ヲ以テ先覺ト爲ス可キモノアル
 今余輩纔ニ年長ノ故ヲ以テ青年學生諸君
 指示スル所アラントスルハ或ハ釋迦ニ説
 ルニ類スルモノナキ能ハズ且ツ諸君ハ李
 兌ニ摸シテ云ハンカ先生鬼ノ言ヲ以テ我等ニ見ヘバ則チ
 可ナリ若シ人事ヲ以テセバ我等既ニ盡シ之ヲ知ルト著者
 モ亦蘇子ニ擬シテ對テ云ハントス余輩固ニ鬼ノ言ヲ以テ
 諸君ニ見ヘントス人ノ言ヲ以テスルニ非ラズ即チ諸君ノ

未ダ曾テ夢想セザル所ノ新案論理ヲ以テ聊カ其方針ヲ指
 示セントス余輩モ亦曾テ學生タルノ身ニシアレバ其經歷
 シタル所ノ實驗ヲ傳ヘントスルニ在ルナリ且ツ余輩ノ性
 常ニ自ラ適ク所ニ適テ人ノ適ク所ニ適カズ是ヲ以テ人ノ
 見ル所人ノ知ル所ハ敢テ余輩ノ注眼スル所ニ非ラズ其
 輩ノ注眼スル所ハ人ノ未ダ見ザル所人ノ曾テ知ラザル所
 ノ奇異ナル點ニ在リテ存スレバ余輩ノ論ズル所説ク所ハ
 悉皆鬼語ニ非ラザルハナシ唯ダ時トシテハ餘リ奇異ニ過
 ギ人或ハ堅白異同ノ辯ヲ試ムルモノト爲ス者アリ然レモ
 余輩豈ニ敢テ辯ヲ好マンヤ實ニ天下ノ道理ハ斯クアラテ
 ハナラヌト信ズルノ已ム可ラザルモノアレバナリ是ニ於
 テ願レバ學生諸君ノ憂ヒタル本書ニ鬼語乏シキヤノ疑惑
 ハ漸次讀過スルニ從テ將ニ氷解スルノ期アラントス可ク

杜
 可
 毛
 毛

レハ却テ著者ヲシテ諸君ハ奇ノ外粧ヲ帶ビ怪ノ狀貌ヲ有
 シタル異說中ノ眞理ヲ看破シ以テ其說ヲ容ル、ノ度量ア
 ルヤ否ヤヲ疑惑セシムルニ至レリ諸君果シテ之ヲ容ル、
 ノ器度アルカ若シ之レアリトセバ余輩モ亦務メテ新奇妙
 案ヲ論定シ以テ諸君ノ未ダ曾テ聞見セザル所ノ宮殿樓閣
 ニ至ルノ道路ヲ案内セント欲ス夫レ諸君ノ聞見セザル所
 ノ乾坤廣カル可シ乞フ余輩ガ誘導スル所ノ道路ニ隨テ來
 ラレヨ必ズ驚感スル所ノモノ多カラシ
 往昔墨子素絲ヲ染ムル者ヲ見テ歎クテ曰ク蒼ニ染ムレバ
 則チ蒼、黃ニ染ムレバ則チ黃、以テ入ル所ノモノ變ズレバ其
 色亦變ズ五ヲピ入テ以テ五色ヲ爲ス故ニ染メ慎マザル可
 ラズ獨リ絲ヲ染ムルノミ然ルニ非ラズ國モ亦染ムルアリ
 舜ハ許由伯陽ニ染マリ禹ハ皐陶伯益ニ染マリ湯ハ伊尹仲

應ニ染マリ武王ハ太公望周公旦ニ染マル云々夏ノ桀ハ羊
 辛岐踵戎ニ染マリ殷ノ紂ハ崇侯惡來ニ染マリ周ノ厲王ハ
 虢公長父榮夷終ニ染マリ幽王ハ虢公鼓祭公敦ニ染マル云
 々獨リ國ノミ染メアルニ非ラズ士モ亦染メアリ云々ト是
 レ我邦ニ朱ニ交レバ赤クナルト云フ俚諺アリ泰西ニ其友
 チ視ルキハ其人ト爲リチ知ル可シト云フ通語アル所以ナ
 リ青年學生ハ即チ一種ノ素絲ニシテ之レガ朋友ハ即チ染
 具タルモノナレバ其以テ善タリ惡タルハ皆チ一ニ其友色
 ノ染マリシモノナリ學問傳ノ教師ハ僅々數人ニ過ギズ
 シテ其矢場若クハ北廓誘導ノ教師ハ無慮數十百人アルコ
 ナレバ動モスレバ其善チ學バズシテ其惡チ習フコ多シ是
 レ其嘗テ西國立志編ノ譯書ニ激セラレ男兒志チ立テ、郷
 關チ出テ學若シ成ルチクンバ死ストモ歸ラズトノ一言著

不
 少
 少
 少

遺シテ出京シタル目的ヲ達セズシテ途中ニ失敗スル者多
 キ所以ナリ故ニ朋友ハ最モ謹ミ慎ミテ良友チ撰擇セザル
 可ラザルコ普ク世人ノ知了スル所ナリ
 然ルニ茲ニ一種ノ朋友アリ世人ノ餘リ注意セザル所ノモ
 ノニシテ其實至緊至要ノ關係チ保ツモノアリテ存スルナ
 リ何ツヤ前段論ズル所ノ朋友ハ其善ナル者ハ何時ニテモ
 交ル可クシテ其惡ナル者ハ何時ニテモ交ル可ラザルモノ
 ナレト其一種ノ朋友ハ敢テ善惡チ區別スルニ非ラズ否チ
 強テ之レガ區別チ爲サンニハ先ツ善ナルモノナラン唯ダ
 其心志ニ異同アルガ爲メ或時ハ以テ此チ信友ト爲ス可シ
 又或時ハ以テ彼レチ交友ニ求ム可キノ差アルノミ此事小
 ハ以テ一身ノ得失ニ關シ大ハ以テ一國ノ利害ニ係ハルモ
 ノナレバ決シテ忽ニス可ラザルモノトス余輩ハ之チ論ズ

ルニ先チ甲乙二論者ヲ假設シ以テ其長短ヲ戰ハシ而シテ
 後舒ロニ余輩ノ意見ヲ論述セント欲スルナリ
 甲論者曰ク同志ト交レバ則チ彼レノ心ハ我レニ投ジ我レ
 ノ情ハ彼レニ通ジ彼レノ論ハ我レニ適ヒ我レノ説ハ彼レ
 ニ合ヒ彼我互ニ親睦ニシテ恰モ彼レノ身ハ我レノ身ノ如
 ク我レノ體ハ彼レノ體ノ如クナレバ有事ノ日ニハ互ニ己
 レノ事トシテ盡カスルチ以テ其利益大ナリト雖也其交ル
 人若シ異志ナレバ則チ至ク右ニ反スルチ以テ終ニ其交情
 ノ不和チモ生ズ可ク又一人別ニ紛議ヲ興ス_一アルモ他ノ
 一人ハ恰モ秦人ノ越人ニ於ケルガ如ク彼レハ彼レダリ我
 レハ我レタリ我レ何ツ彼レニ關センヤト至ク對岸ノ火災
 視ス可ケレバ其損失モ亦大ナリト謂フ可シ是レニ由テ之
 チ觀レバ朋友ハ必ズ同志ヲ求ム可クシテ決シテ異志ヲ求

乙論者曰ク

ム可ラザルナリト
 乙論者曰ク異志ト交レバ則チ彼レノ識ラザル所ハ我レ之
 チ識リ我レノ知ラザル事ハ彼レ之チ知ルチ以テ彼レノ短
 ハ我レ之チ補ヒ我レノ不足ハ彼レ之チ足シ又彼レノ愚見
 ハ我レ之チ論破シ我レノ偏癖ハ彼レ之チ駁撃スルチ以テ
 互ニ誤謬ヲ去リテ眞理ニ入り且ツ他山ノ石ヲ以テ切磋琢
 磨スルガ故ニ其智識益々進歩スレ也其交ル人若シ同志ナ
 レバ其知ル所ハ各知リ其知ラザル所ハ互ニ知ラズ其長ズ
 ル所短ズル所皆ナ同一ナレバ互ニ毫モ交益スル所ナク畢
 竟朋友アリテ朋友ナキガ如シ是レニ由テ之チ觀レバ朋友
 ハ必ズ異志ヲ求ム可クシテ同志ヲ求ム可ラザルナリト
 右甲乙兩論者ノ説互ニ一利ナキニアラザレ也畢竟羅馬ナ
 ル兩騎士ノ紀功牌金銀ノ論争タル偏見ヲ免レズ何トナレ

パ朋友ハ同志ヲ求ム可キ時ト異志ヲ求ム可キ時トノ區別
 アレバナリ然ラバ其同志ヲ求ム可キハ何レノ時ニ在リテ
 又其異志ヲ求ム可キハ何レノ時ニ在ルカ曰ク甲半世即チ
 少年ノ時ハ異志ト交ル可シ乙半世即チ老年ノ時ハ同志ト
 交ル可シ蓋シ人間ノ生涯ヲ細見スレバ乃チ生レテ二十年
 ニ至ル迄ハ人ノ世話ニ爲ル可キ時ニシテ二十年ヨリ二十
 五年迄ハ人ノ世話ニモ爲ラザレバ亦敢テ人ノ世話ヲモ爲
 ササル時ナリ而シテ二十五年ヨリ五十年迄ハ人ノ世話ヲ
 爲ス可キ時ニシテ五十年ヨリ以上ハ復タ人ノ世話ニ爲ル
 可キ時ナリ然レモ其人々ノ強弱若クハ生活ノ貧富如何ニ
 由リ多少ノ差違アレバ假ニ之ヲ大別シテ人ノ世話ニ爲ル
 可キ時ト人ノ世話ヲ爲ス可キ時トノ二個ト爲ササル可ラ
 ズ而シテ人ノ世話ニ爲ル可キ時トハ即チ己レノ學識ヲ研

究スルノ時ニシテ人ノ世話ヲ爲ス時トハ即チ社會ノ利益
 ヲ謀ル可キノ時タリ之ヲ解シ易ク云ヘバ甲半世ニ人ノ世
 話ニ爲リ以テ學識ヲ仕入テ而シテ後乙半世ニ之ヲ社會ニ
 施與シテ以テ人ノ世話ヲ爲スト云フニ在リ是レ猶ホ其學
 生ガ甲半世ニ廣ク他ノ著書ヲ閱讀シテ乙半世ニ己レノ意
 見論說ヲ天下ニ公布スルガ如シ然ラバ則チ甲半世ニハ務
 メテ志ヲ異ニセル者ヲ交友ニ求メテ己レノ短ズル所ヲ補
 ヒ己レノ不足スルモノヲ足シ他山ノ石ヲ以テ切磋琢磨シ
 テ以テ己レノ學識ニ光澤ヲ生セシメザル可ラズ然ルニ此
 時ニ在テ志ヲ同ウセル者ヲ交友ニ求ムレバ則チ乙論者ノ
 云ヘルガ如ク我レノ識ル所ハ彼レモ亦之ヲ識リ我レノ知
 ラザル事ハ彼レモ亦之ヲ知ラザレバ到底我が短ヲ補ヒ我
 ガ不足ヲ足ス不能ハザルナリ嗚呼土臺ノナキ何ツ夫レ家

屋ヲ築クヲ得ンヤ學術ノ成ラザル焉ンゾ夫レ社會ヲ利
 スルヲ得ンヤ甲半世ニ志ヲ同ウスル者ヲ交友ニ求メテ
 乙半世ニ社會ニ向テ利スル所アラントスルハ猶ホ木ニ縁
 テ魚ヲ求ムルガゴトシ愚モ亦甚ダシカラズヤ故ニ曰ク甲
 半世ニハ務メテ志ヲ異ニセル者ヲ交友ニ求メテ己レハ學
 識ヲ練磨セザル可ラズト
 然レモ何時迄モ志ヲ異ニセル者ト交リテ志ヲ同ウセル者
 ト交ラザレバ何レノ時ニカ社會ニ義務ヲ盡サンヤ到底其
 義務ヲ盡スノ期アル可ラズ學識ハ益々進歩スト雖モ畢竟
 地獄ノ土産タルニ過ギザルナリ何トナレバ志ヲ異ニセル
 者ハ動モスレバ甲論者ノ云ヘルガ如ク汝ハ汝タリ我レハ
 我レタリ我レ何ツ汝ニ關セント他人心ヲ生ズルヲ以テ朋
 友團結スルヲ能ハズ團結ノナキ何ヲ以テカ事ヲ成サンヤ

論

夫レ成功ノ原因ハ智ニアリテ衆ニアラズト雖モ其成功ノ
 結果ハ衆ニ因リテ智ニ因ラズ好シヤ假令此輩ガ團結スル
 ヲ得ルモ萬人萬心ニシテ事ヲ謀ル亦何事カ成ラン淮南子
 曰千人同心則得千人之力萬人異心則無一人之用ト故ニ曰
 ヲ乙半世ニハ務メテ志ヲ同ウスル者ヲ交友ニ求メテ己レト
 共ニ社ヲ結ビ黨ヲ組ミテ社會ハ利益ヲ謀ラザル可ラズト
 右ニ論ズル所ヲ約言スレバ異志ト交ルハ己レ一身ノ利ニ
 シテ同志ト交ルハ一國ハ益ナリ故ニ人タル者ハ甲半世ニ
 ハ異志ト交リテ己レ一身ノ學識ヲ研究シ以テ乙半世ニ同
 志ト結合シテ之ヲ國家ニ施行セザル可ラザルナリ然レモ
 強チニ甲半世ニハ同志者ハ一人モ交友ニ求ム可ラズ乙半
 世ニハ異志者ハ一人モ朋友ニ求ム可ラズト云フニ非ラズ
 余輩ノ本意ハ甲半世ニハ異志者ヲ多ク求ム可クシテ同志

者ヲ少ナク求ム可シ乙半世ニハ同志者ヲ多ク求ム可クハ
 テ異志者ヲ少ナク求ム可シト云フニ在リ是レ猶ホ甲半世
 ニハ讀書ヲ多クシテ作文ヲ少ナクシ乙半世ニハ作文ヲ多
 クシテ讀書ヲ少ナクスルガ如クナル可シト云フニ在リ斯
 ク縷々懇説スル所ヲ以テ見レバ青年學生ハ積極ノ地位ニ
 在リテ敢テ消極ノ置位ニ在ルニアラザレバ其務メ當ニ己
 レ一身ノ學識ヲ研究スベシ敢テ社會ヲ利センコト謀ル可
 ラズ否ナ之ヲ謀ル或ハ可ナリト雖モ之ヲ謀ランニハ必ズ
 其己レノ本業タル學問ヲ廢スルノ不幸アルヲ如何セン然
 ルチ今日ノ青年學生其朋求ノ撰ブ可キモノアルヲ知ラズ
 莊子ノ所謂世俗之人皆喜人之同乎己而惡人之異於己也同
 於己而欲之異於己而不欲者以出乎衆爲心也夫以出乎衆爲
 心者曷常出乎衆哉因衆以寧所聞不如衆技衆矣ト云フノ病

或ハ此ニシテ

患ニ陥リ其身尙ホ青年積極ノ地位ニ在リテ早ク既ニ同志
 者ヲ交友ニ求ムルヲ以テ三人相會スレバ談必ズ國事ニ及
 ブ然ルニ既ニ志ヲ同ウスル者ナレバ忽チ同感同情ヲ惹起
 シ甲談乙賛或ハ切齒トナリ或ハ扼腕トナリ其熱心ノ餘リ
 公時然タル赤顔トナリ互ニ狂シテ東西ニ奔走ス其極終ニ
 政談アルヲ知リテ學術アルヲ忘ルニ至ル其熱心國事ニ
 奔走スルハ稱ス可キモ既ニ學問ヲ誤ルヲ以テ其主張スル
 所ノモノ精細緻密ナル意見議論ナク唯ダ漠然自由ニ民權
 ヲト大呼スルマデノミ其他敢テ云フ可キノ真理ナシ豈ニ
 亦淺劣ノ至リナラズヤ是レ其宜シク異志ヲ求ム可キ時ニ
 在リテ同志ヲ求ムルノ誤チニ因ルノミ乞フ青年學生タル
 者此點ニ注眼セザル可ラザルナリ將ニ論局ヲ結ハントシ
 テ一言ヲ要ス可キコトアリ何ゾヤ朝ニ甲友ヲ訪ヒ午ニ乙友

針
金三三

ヲ尋テ夕ニ丙友ヲ訪ヒ夜ニ丁友ヲ尋テ終日終夜朋友ヲ訪
フヲ以テ業トスル者アリ斯クテ其談ズル所如何ト云フニ
敢テ要談ナク常ニ空話ナラザルハナシ嗚呼光陰ヲ消費ス
ル焉レヨリ大ナルハナシ豈ニ夫レ慎マザル可ケンヤ

○第二章 學生天狗ノ氣ヲ利用スルノ要談

天下細大ノ事物氣ヲ以テ成ルヲ常人ノ意想外ニ在リ抑モ
此氣タルヤ視ユルガ如ク又見エザルガ如ク然リ故ニ智者
ハ之ヲ視ルヲ得ルト雖モ愚者ハ之ヲ見ルヲ能ハザルモ
ノアリ孟子之ヲ浩然ノ氣ト云フ今余輩ハ之ヲ青年學生ノ
身上ニ就テ論ズル所アラントス夫レ之ヲ利用スルノ裨益
大ナルモノハ之ヲ害用スルノ損失モ亦大ナリトス即チ氣
ヲ利用スルノ裨益ハ頗ル廣大ナリ故ニ若シ誤テ之ヲ害用
スルトキハ從テ其損失モ亦廣大ナリ豈ニ夫レ慎マザル可

ケンヤ少年ノ初メテ學ニ就クヤ乃チ小學讀本ヲ見或ハ
BQヲ讀ムヲナラン此時ニ當テヤ未ダ曾テ天狗ノ氣ヲ生
ズルヲナク唯ダ無心ニ閱讀スルヲ以テ其務メトス然ルニ
稍々學問進歩シテ所謂生物知りノ地位ニ至ルヤ忽チニシ
テ天狗ノ氣ヲ生シ天下亦能ク我レニ比肩スル者ナカラ
杯ト想ヒツ意氣揚々自得鞍馬然トシテ歩行スルニ至ルハ
一般學生ノ免レザル所ノ通患ナリ畢竟スルニ人ノ天狗ニ
ナルハ其身ノ藝術一步進ミタルヲ證スルニ足ルモノアル
可シ然レモ此時ニ當テ其天狗氣ノ方向如何ニ由テハ大ニ
其利害ヲ異ニシ或ハ之レニ因テ以テ後來益々其藝術進歩
ス可ク或ハ全ク其所ニ藝術ノ進歩ヲ止ム可ケレバ最モ注
意ニ注意ヲ要ス可キ時ナリ
人或ハ曰ク天狗慢心自負ハ是レ最モ憎ンデモ又惡ム可キ

モノナレバ其何タルヲ問ハズ此氣ハ全ク身心外ニ排除ス
 ルニ若カズト夫レ然リ豈ニ夫レ然ランヤ人ノ生ル、ヤ天
 既ニ此氣ヲ賦與シタルモノニシテ決シテ除去ス可ラザル
 モノナリ唯ダ其方向ヲ轉ゼシメ以テ之ヲ利用スルニ在ル
 ノミ茲ニ二人アランニ他人ヨリ之ヲ見レバ同等均力ニシ
 テ毫釐ノ差違ナキガ如ク思惟セラル、ト雖モ若シ其兩人
 ノ心裏ニ入リテ之ヲ窺ヘバ必ズ互ニ我レ彼レニ優レリト
 ノ心アルヤ疑ヒナシ是レ人々自腦ニ問ハ、自ラ感心スル
 モノアラン唯ダ藝術進歩セザレバ其天狗ノ氣終ニ外面ニ
 形ハレザルノミ假ニ此天狗ノ氣ヲ全ク身心外ニ排除スル
 ①得ルトセンカ若シ果シテ之ヲ排除セバ決シテ萬人ノ
 上ニ秀ツルノ人物ト爲ルヲ能ハザルナリ故ニ人類ハ必ズ
 天狗ノ氣ナカル可ラザルモノトス唯ダ之ヲ利用スルノ方

此氣ハ全ク
 身心外ニ
 排除スル
 事ナリ

或ハ此氣ハ
 人心ニ在ル
 事ナリ

天狗ノ氣

チ求ムルニ在ルノミ

人天狗ヲ大別シテ二ツトナス曰ク身天狗曰ク心天狗即チ
 是レナリ然ラハ孰レチカ養成ス可クシテ孰レチカ廢棄ス
 可キ乃チ心天狗ヲ養成シテ身天狗ヲ廢棄スルヲ以テ學術
 進歩ノ助ケトスルナリ何チ以テ斯カル奇怪ノ言チ吐クカ
 抑モ其說アリテ存スルナリ古人稱スルヲアリ曰ク木實繁
 者披ニ其枝ニ披ニ其枝者傷ニ其心ト人夫レ身天狗トナリ務メテ外
 觀チ虚飾スルニ汲々トシ常ニ意氣揚々自得鞍馬然タル者
 ハ其心專ラ外飾ニ集マルヲ以テ中心自ラ空虚トナリ之レ
 ガ務メニ怠慢ナルハ必然ノ情勢ナリ老聃云ハズヤ良賈深
 藏若虚君子盛徳容貌至愚ト故ニ高帽長髯ハ却テ卑才短智
 ノ反證ヲ表スルモノアルニ似タリ左レバニヤ俗人ノ通語
 ニ云ハズヤ官位益々高貴ナレハ益々下民ニ待スルノ狀貌

穩和ニシテ官位愈々卑賤ナレバ愈々下民ニ遇スルノ情態
 傲慢ナリト余輩曾テ腕ヲ振ルノ大小ヲ以テ其人ノ等級若
 シハ其度量ヲトスルニ未ダ一回モ之ヲ誤チシトナシ即チ
 皆ナ其反證ヲ與ヘザルモノナシ故ニ身體ノ外貌ハ決シテ
 天狗ノ身振リアルコトナク必ズ其反對ノ阿龜ノ如ク穩和ニ
 在リタキモノニコソアレ
 然レモ此身天狗ヲ嫌フノ餘リ其心ノ天氣ヲ去ル可ラズ若
 シ夫レ之ヲ去リタランニハ其人ヲ目シテ眞ノ人類トハ謂
 フ可ラズ即チ一種精神ナキ空虚ノ人ト謂ハザルヲ得ズ何
 トナレバ天狗心ハ事業ヲ成スノ基本ナレバ凡ソ人ノ事ヲ
 成サントスルヤ苟モ天狗心ナクンバ決シテ其事ヲ貫徹ス
 ルノ勇氣ナカル可シ故ニ余輩ハ常ニ天狗心ハ成事ハ母ナ
 リト云ヒツ之ヲ貴重セリ曾テ或人云ヘルコトアリ自貴ノ心

天狗心ハ成事ハ母ナリト云ヒツ之ヲ貴重セリ曾テ或人云ヘルコトアリ自貴ノ心

ニテ其意見ヲ主張シ當時ノ學者紳士ト辯難スルノ時ニ

ハ成功ノ元素ナリ今其一例ヲ示サバ彼ノ閣龍ガ各國ニ奔
 走シテ其意見ヲ主張シ當時ノ學者紳士ト辯難スルノ時ニ
 當リ若シ自貴ノ心ナク余輩ハ是レ一水夫ニシテ彼等ハ皆
 ナ博學多識ノ貴紳ナリ逆モ余輩ノ企テ及ブ所ニ非ラザル
 ナリト卑怯ノ意思ヲ生出スレバ何ツ能ク米洲發見ノ大業
 チ成就スルコトヲ得ンヤ云々ト蓋シ亦茲ニ見ル所アルモノ
 、如シ西賢斯邁爾斯氏曰ク自己ヲ馮信セザル者ハ敏速ニ
 事ヲ成ス能ハズト夫レ自貴ノ心ト云ヒ又自己ヲ馮信スル
 ノ心ト云ヒ文字コソ天狗心ニ異ナレ畢竟其意義ハ同一ナ
 リ蓋シ人ニシテ天狗心ナケレバ事ニ當テ之ヲ成シ遂ゲン
 トスルノ勇氣ナシ既ニ勇氣ナシ何ヲ以テカ其事ヲ成サン
 到底之ヲ成スコト能ハザル可シ故ニ人ハ必ズ心天狗ヲラザ
 ル可ラザルモノトス特ニ青年學生ノ身上ニ取テハ此心ノ

空
中
神
の
心

必要ナルヲ猶ホ魚ノ水ヲ要シ木ノ土ヲ要スルガ如シ何ゾ
 ヤ青年學生ハ其年齡尙ホ若少ニシテ前途ニ期スル所ノ企
 望多クシテ之ヲ成シ遂ゲンモノ皆ナ其基礎ヲ天狗心ノ勇
 氣ニ取レバナリ故ニ青年學生ハ皆ナ天下ニ我レ程ノ者ハ
 ナシト大天狗ニ爲リ其心ノ鼻ヲ喜馬拉山大ニ爲スコソ至
 極學問進歩ノ助ケトナルヲナラン
 斯ク論シタル儘ニテハ大ニ後生ヲ誤ルモノナリ故ニ余輩
 ハ其心天狗ノ中ニ就テ又其貴ム可キモノト賤ム可キモノ
 トノ區別ヲ示サン此ノ區別ヲ知り得テコソ始メテ青年學
 生ノ大裨益トナルヲナラン左レバ諸君ニ於テモ亦此段ハ
 最モ注目ヲ要ス可キ所ナリトス乞フ輕々看過スルヲ勿レ
 余輩一言斷々乎トシテ云ハントス曰ク其如何ナル人タル
 ナ問ハズ才智ハ己レ天下最上等ナリト思惟ス可ク藝術ハ

後
天
狗
心

己レ社會最下級ナリト思惟ス可シ此心得アリテ始メテ天
 下ノ偉業ヲ奏ス可シト其所謂最上等ナリト思惟ス可キ才
 智ハ必ズ天狗タラザル可ラズ然レモ其所謂最下級ナリト
 思惟ス可キ藝術ハ必ズ天狗タル可ラズ乞フ其理由ヲ論ゼ
 ン試ミニ藝術ヲ既ニ成熟シタルモノトシテ見シカ此心ノ
 發スルト同時ニ天下亦學ブノ藝術ナク又我が師ト爲ス可
 キ者ナシト感ズルヤ自然ノ情勢ニシテ此感ノ起ルヤ必ズ
 其藝術茲ニ停滯ス可キヲ亦最モ親易キノヲナリトス然ル
 ニ既ニ充分成熟シタル藝術ヲモ尙ホ未熟ノモノト思惟ス
 レバ此心ノ發スルト同時ニ其未熟ナル藝術ヲ尙ホモ研究
 セント欲スルヲ自然ノ情勢ニシテ此欲ノ起ルヤ必ズ其藝
 術ノ進歩アラント亦期シテ待ツ可キナリ況ンヤ才智ハ己
 レ天下最上等ナリト思惟シ藝術ハ己レ社會最下級ナリト

思惟スル者ニ於テチヤ如何ゾ其藝術上進セザランヤ必ズ
 ヤ駿々乎トシテ上進スルヲ恰モ電信ノ飛行スルガ如クナ
 ル可シ即チ其人ノ心裏ニ必ズ思フラン我が才智ハ天下最
 上等ナリ然レモ如何ニセン我が藝術ハ社會最下級ナリ然
 レモ此ノ我が天下ニ比類ナキ才智ヲ以テ深ク藝術ヲ研究
 シタラシニハ必ズヤ好人物ト爲ル可キヲ疑ナシト是レ自
 然ノ推感ニテ此感覺起ル天下亦何事カ成ラザルチ愛ンヤ
 故ニ人タル者特ニ青年學生ハ必ズ其才智ハ過足ナルモノ
 ト思惟シ藝術ハ不足ナルモノト思惟セシテ最モ緊要ノ心
 得ニテ決シテ忽ニス可ラザルモノナリ然レモ其才智ノ天
 狗タル深ク之ヲ腦中ニ藏シテ漫ニ之ヲ口外セザルヲ又最
 モ肝要ノヲナリトス

天狗

以上論ズル所ヲ約言スレバ人タル者特ニ青年學生ハ必ズ

其心[◎]天狗タル可ク決シテ其身[◎]天狗タル可ラズ又其才[◎]天狗
 タル可ク決シテ其藝[◎]天狗タル可ラズ又其腦[◎]天狗タル可ク
 決シテ其口[◎]天狗タル可ラズ此三個ノ區別ヲ知リテ以テ學
 問ヲ勉勵セバ其進歩ノ迅速ナルヲ亦敢テ疑ヒナシ故ニ若
 シ其區別ヲ誤ツキハ其學問ノ退歩亦敢テ疑ヒナシ乞フ青
 年學生ヨ最モ注意ニ注意シテ其區別ヲ誤ツテ勿レ余輩、諸
 君ニ向テ鬼語ヲ呈センヲ約シタルガ本章ニ於テ其鬼語
 チ呈スルヲ能ハズ却テ天狗ノ語ヲ呈ス然レモ鬼神ト天狗
 トハ固ト同一種類ノモノナレバ亦敢テ約外ノモノダラザ
 ル可シト云ヘバ諸君ハ必ズ一笑スルヲナラン

○第三章 光陰ヲ消費スル養生ハ敢テ守ルニ足ラズ
 西人曰ク強壯ノ精神ハ健康ノ身體ニ宿ルト是レ學生諸士
 ガ養生ニ心ヲ傾クル所以ノ基本ナリ然レモ余輩ハ少シク

疑惑ナキ能ハザルモノアリ何ツヤ身體ノ養生ヲ爲サント
 固ヨリ以テ善シ左レド其所謂養生ヲ守ラントハ殆ンド光
 陰ノ半バチ失ヒ爲メニ讀書ノ時間ヲ奪ハ、ル、ト頗ル大
 ナルノ不利アルヲ如何セン試ミニ其所謂養生法ノ要點ヲ
 擧ゲンカ曰ク食事ノ前後ハ少ナクトモ三十分前後ハ休息
 ス可シ曰ク一日一二時間ハ必ズ運動ス可シ曰ク夕景ヨリ
 夜間ノ讀書ハ視力ヲ害ス宜シク之ヲ廢ス可シ曰ク何日ク
 何ト時間ヲ消費スルモノ最モ多キニ在リ以テ一日ノ光陰
 殆ンド其半バチ失フ可シ然ルチ青年學生皆ナ此養生ヲ守
 ラザル可ラザルモノト信シ數輩相會スレバ必ズ散步運動
 浩然ノ氣ヲ養ハント例ノ犬殺シ様ノ太棒ヲ提ヘ腕ヲ露ハ
 シ或ハ談シ或ハ笑ヒ意氣揚々自得駭馬然トシテ東西ヲ散
 歩スルト宛然無人ノ境ヲ橫行スルニ異ナラズ偶々一生建

後集
 後集
 後集

以好子
 以好子

好子

好子

好子

議シテ曰ク諸君ヨ近頃讀書ノ鬱氣ヲ散ゼンガ爲メ妓樓ニ
 登ルコ意ナキヤ這モ亦養生ノ爲メナリト衆生皆ナ善シト
 賛成シヌレバ其議忽チ決シテ乃チ妓樓ニ登リ數十盃ヲ傾
 ケ獻酬酬ニシテ玉山モ亦將ニ倒ントスルニ當リ一生將ニ
 歸ラントスレバ衆生乃チ曰ク以五十步笑百步則如何ト是
 レニ答辭ナク心中竊ニ毒ヲ喰ハ、皿マデモト覺悟ヲ定メ
 ツ終夜妓樓ニ籠城スルニ至ルハ如何ニモ慨歎ノ至リニテ
 其原因多クハ養生ヲ守ラント云フニ起ルモノナリ實ニ養
 生ノ影響大ナリト謂フ可シ然レモ是レ養生其モノ、害ニ
 非ラズシテ其養生ヲ爲サント欲シタル者ノ偶々誤用シタ
 ルノミ故ニ敢テ之ヲ咎メズシテ可ナランカ夫レ然リ然レ
 モ余輩モ亦其孟子ノ言ヲ引キ來テ論ズル所アラントス乃
 チ孟子曰ク魚ハ我が欲スル所ナリ熊掌モ亦我が欲スル所

好子
 好子

經訓

ナリニツノモノ兼ヌルヲ得可ラザレバ魚ヲ舍テ熊掌ヲ
 取ラン者ナリ生モ亦我が欲スル所ナリ義モ亦我が欲スル
 所ナリニツノモノ兼ヌルヲ得可ラザレバ生ヲ舍テ義ヲ
 取ラン者ナリト夫レ人心ノ同シカラザル其面ノ如シ人々
 ノ望ム所種々様々ニシテ相同シカラズ或ハ生命ヲ貴ミテ
 名譽ヲ賤ム者アリ或ハ名譽ヲ貴ミテ生命ヲ賤ム者アリ固
 ヲリ以テ生命ハ長シ健康ニシテ名譽アル好人物トナラン
 一チ欲スルハ論ナシト雖ヒ養生ノ爲メ人生半ハノ光陰ヲ
 消費セラル、ニ於テハ好人物トナル可キ學問勉強ノ時間
 乏シキチ如何セン然ルチ好人物タラント欲シテ螢雪錐繩
 ノ勉強耐忍セバ亦多少其健康ヲ害セザルヲ得ズ實ニ進退
 谷ルト謂フ可シ故ニ余輩ハ學生ノ身上ニ就キ云ハントス
 鰻飯ハ我が欲スル所ナリ牛肉モ亦我が欲スル所ナリニツ

兼ヌルヲ得可ラザレバ魚ヲ舍テ熊掌ヲ取ラン者ナリ

兼ヌルヲ得可ラザレバ魚ヲ舍テ熊掌ヲ取ラン者ナリ

兼ヌルヲ得可ラザレバ魚ヲ舍テ熊掌ヲ取ラン者ナリ

或人稱スルヲアリ曰シ試ニ今世界中ノ事業ヲ成シタル人
 ハ、既往ヲ問ハ、其事ハ十八八九ハ必ず不養生ヲ以テ成リ
 シ、トナラン、紐敦、佛蘭、格林、ハ勉強中モ必ず徹夜シタルヲ
 ラ、ン、豊、太、閻、東、照、公、ノ、櫛、風、沐、雨、モ、亦、大、ナル、不、養、生、ナ、ラ、ン、孔
 夫子ガ嘗テ終日食ハズ終夜寝テザリシモ亦其健康ノ幾分
 ヲ害シタルヲナラン人間萬事不養生ヲ以テ成ルト云フモ
 可ナリト實ニ斯ノ如キ勢ヒナキニ非ラザルモノ、如シ
 好シヤ強壯ノ精神ハ健康ノ身體ニ宿ルトスルニモセヨ其
 身體ノ健康ヲ保維セントシテ世俗ノ所謂養生法ヲ守リ人

生ノ光陰殆ンド其半ハチ消費セバ何チ以テカ其精神ノ智
識チ増サンヤ其身體健康ナルガ爲メ其精神モ亦隨テ強壯
ナリトスルモ其強壯ハ畢竟スルニ愚ノ字ノ意味チ含ミタ
ル強壯タルニ過ギザル可シ即チ一種ノ熊公八公チ作爲ス
ルモノタルニ止マルナリ然ルチ世俗ノ所謂養生法チ顧ミ
ズシテ勉強耐忍セバ或ハ其健康ノ幾分チ害シ從テ其精神
チモ亦多少衰弱セシムルコアリトスルモ其精神ハ必ズ智
ノ意義チ有シタル衰弱タルコナラン蓋シ弱衰ハ強壯ニ若
カザルハ數歩ノ間ニ在ル可シト雖ヒ痴愚ハ賢智ニ如カザ
ルハ數十歩ノ隔テアル可シ故ニ余輩ハ健康チ舍テ賢智チ
取ラント欲スルナリ

斯邁爾斯氏曰ク人ノ品行苟モ思想ト行爲ト合シテ一體ト
爲リテ形ヅクルニ於テハ不死ノ性質チ有スルナリ思想ノ

大家閑居獨處ニ於テ思想スル道理轉シテ他人ノ心中ニ居
チ占メ其後日用行爲ニ發シ習慣ト爲ルナリ是レ其一世ニ
止マラズ後代ノ遠キニ達シテ斯ノ如シ蓋シ其人骨朽ツト
雖ヒ恰モ大音チ揚ゲテ千歳ノ後ノ活人ノ心チ感發セシム
ルガ如シ豈ニ之チ既ニ死セリト云フ可ケンヤ是ノ故ニ普
拉的、瑣格刺底、亞里斯達多爾、西塞路、倍根等ノ諸人ハ今尙墓
石ヨリ言語チ發シ以テ我輩後世人チシテ之チ聽カシメリ
ト信ニ然リ孔孟既ニ其假リノ體骸ハ死スト雖ヒ其精神ノ
存スル論孟ハ未ダ敢テ死セズ日々我輩後人ト談話スルニ
非ラズヤ彼ノ顔回ハ不幸短命ニシテ死スト云フト雖ヒ余
輩チ以テ之チ見レバ未ダ死セザルモノト信ズルナリ何ツ
ヤ今日ニ至ルマデ支那聖賢チ稱スル者一ニ孔子ト云ヒ二
ニ顔回ト云フ是レ其効驗死セザルト一般ナルニ非ラズヤ

然ラバ其不死不滅ノ精神ヲ作りタルモノハ何ゾヤ即チ世
 俗ノ所謂養生法ニ背キタル勉強耐忍ノ不養生ニ因テ得タ
 ルモノニ非ラズヤ然ルニ其世俗ノ所謂養生法ヲ守ラハ或
 ハ幾分ノ健康ヲ増シ且ツ一二年ノ生命ヲ長クスルヲ得
 ルト雖モ其養生ノ爲メニ殆ンド半ハノ光陰ヲ消費セラル
 、チ以テ到底好人物タルヲ能ハズ既ニ好人物タルヲ能ハ
 ザルヲ以テ世人敢テ其人アルヲ知ラズ唯マ之ヲ知ル者ハ
 近隣ノ人若クハ親戚ノ者ニ限ル可シ況ンヤ其體骸死スル
 ノ後ニ於テチヤ天下亦之ヲ知ル者ナシ數十百年ノ後ハ其
 子孫尙ホ且ツ之ヲ知ラザルニ至ル可シ嗚呼果シテ之ヲ長
 壽ノ人ト云フ可キ乎是ニ至テ之ヲ考フレハ長壽ノ爲メニ
 ハ世俗ノ所謂養生コソ不養生ニシテ其不養生コソ却テ養
 生ナレ豈ニ亦案外千萬ナラズヤ西人云ヘルヲアリ人命ハ

養生法
 養生法
 養生法
 養生法
 養生法

長、短、論、ズ、ル、敢、テ、其、年、齡、ハ、老、若、チ、以、テ、測、ル、可、ラ、ズ、其、成、業、
 ハ、大、小、多、少、ヲ、以、テ、量、ル、可、シ、ト、夫、レ、之、ヲ、謂、フ、ナ、リ

然ラバ則チ世俗ノ所謂養生法ハ悉皆之ヲ守ルニ足ラザ
 ルカ否ナ其守ル可キモノト守ルニ足ラザルモノトノ別ア
 リテ存セリ即チ敢テ光陰ヲ消費セズシテ養生スルヲ得
 ルモノタル飲食ノ種類ヲ精撰スル若クハ其分量ヲ節限ス
 ル等ノ養生法ハ學生ノ宜シク守ルベキモノナリ然レモ讀
 書ノ妨、碍、物、タル、光、陰、ヲ、消、費、ス、ル、養、生、法、ハ、敢、テ、守、ル、ニ、足、ラ、
 ザ、ル、モ、ハ、ト、ス、左、レ、ド、又、多、少、ノ、運、動、ヲ、要、ス、ル、ヲ、ナ、ラ、ン、然、レ
 モ敢テ故ラニ散步ニ出ヅルヲ要セズ人各々多少ノ私用ア
 ラザル者ナシ即チ學生ノ身上ニ就テ例セバ或ハ書籍紙筆
 墨硯ヲ購フルノ用アラン或ハ衣服器具ヲ求ムルノ用アラ
 ン或ハ郵便投函ニ行クノ用アラン或ハ入浴斬髪ニ行クノ

用アラン其他種々様々ノ私用アリテ一週間ニハ必ズ數回ノ多キニ及ベルヲ亦敢テ疑ナシ故ニ其私用ヲ辨ズルノ歩行ヲ以テ運動ニ代フ可シ若シ是レニテモ尙ホ其運動ノ不足ヲ感ズルヲアラハ婢僕ニ命ズルノ用ヲ自ラ立テ辨ズルモ亦可ナリ是レ一ハ以テ我が運動ト爲シ一ハ以テ婢僕ヲ休息セシムルノ便利ト爲リ所謂一舉兩得ノヲナリ然ルチ目今ノ青年學生ハ此ノ至便至利ナル運動法アルチ措キテ問ハズ動モスレバ遊蕩ニ流レ易キ散步ノ運動ニ道ヲ取ル是レ其身ヲ誤ル所以ノ基本ナリ嗚呼青年學生ヨ諸君ハ必ズ光陰ノ社會最大貴重物ナルヲ知ラル可シ古人ハ尺璧ヲ貴マズシテ寸陰ヲ惜ムトコソ云ハレタルニ非ラズヤ古人既ニ然リ此ノ明治十九世紀新日本ノ活社會ニ生出シタル者豈ニ夫レ區々タル養生ノ爲メニ人生ノ光陰殆ンド其

半ヲ消費奪去セラレ、ノ愚夫爲シテ可ナランヤ三、更、ノ燈、火、五、更、ノ、鷄、鳴、正、ニ、是、レ、男、兒、立、志、ノ、時、ナ、リ、
本章中飲食ノ養生ト云フニ就キ聊カ以テ附記ヲ要ス可キ
トアリ何ゾヤ他ナシ近來動モスレバ諸學校ニ於テ其校主ト生徒ノ間ニ紛擾ヲ惹起シテ或ハ其生徒ノ放逐ヲ命ジ或ハ生徒彼レ自身ヨリ退校スルヲ往々アリ其原因ヲ尋ヌルニ多クハ寄宿生賄飲食ノ點ヨリ起ルモノ、如シ是レ余輩ノ所謂光陰ヲ消費セズシテ爲シ得ルノ養生ナレバ其飲食ノ不良粗惡ヲ鳴ス固ヨリ可ナリ然レモ其食物ヲシテ不良粗惡ナラシムルモノハ校主ニ非ラズ抑モ一學校ノ主タル者ハ固ヨリ以テ其學校ノ盛大ナランヲ希望スルモノナレハ敢テ其飲食ヲ不良粗惡ナラシムル等ノヲ爲サンヤ唯マ其賄費ノ多少ニ應ジタル丈ケノ食物ヲ供スルモノナリ

然ルニ時トシテハ其賄方ニ於テ故ラニ其飲食ヲ不良粗惡ニシ不時ノ利ヲ貪ラントスルコトアリ是レ幹事ノ不注意ヨリ起ルモノナルニ似タリト雖モ其事固ト隱密ノ間ニ起ルモノナルヲ以テ數日若クハ數週間幹事ノ全ク知ラザルコトアリ此間ニ生徒ハ既ニ不平ヲ鳴ラシテ其賄方ニ迫マルコト方ハ是レ校主幹事ノ命ノ儘ニ從フノミ敢テ賄方ノ故ラニ不良粗惡ナラシメタルモノニ非ラズト是ニ於テ淺慮ノ生徒ハ忽チ校主ヲ怨望スルニ至ル嗚呼何ゾ夫レ其道ヲ誤ルコト甚ダシキヤ其狡黠策ヲ施ス者ハ賄方ニ在リ然ルニ其苦情ヲ直チニ其賄方ニ鳴ラス如何ゾ其實情ヲ吐クコトアラシヤ乞フ寄宿生タル者ヨ能ク思察セヨ此等ノ苦情ハ必ズ其幹事局ニ申入ル可キモノナラズヤ然ラバ幹事ハ必ズ其賄方ヲ尋問ス可シ其手續順序茲ニ至ラバ忽チニシテ賄方ノ

罪惡發覺スルニ至ル可シ然ルチ事此ニ出デズシテ彼レニ出ヅルハ全ク順序顛倒ノコトト謂フ可シ乞フ寄宿生ヨ夫レ此等ノ點ニ注意セラレヨ彼ノ有名ナル華連、希斯、丁格斯サヘモ常ニ彼レノ身體ノ細小衰弱シタルコトヲ曾テ入校シタリシ納維格頓ナル學校ノ食物ガ硬惡ニシテ且ツ不足ナルコトニ歸シタル位ナレバ最モ賄方ノ飲食ニ注意シテ若シ不良粗惡ノコトアリタランニハ宜シク之ヲ幹事局ニ訴フベシ決シテ其狡黠ヲ働キタル賄方ニ迫リ其罪ヲ校主幹事ニ歸セラル、ノ愚ヲ爲スコト勿レ這モ亦敢テ光陰ヲ消費スルコトナキ養生ノ一法ナリ

○第四章 目的ヲ定ムルノ時機ヲ論ズ
人ノ目的ナカル可ラザルコトハ學生諸君ノ業ニ已ニ知了セララル、所ニシテ今更敢テ余輩ノ贅言ヲ待タザル所ナリ然

レ其目的ハ何レノ時ニ於テカ之ヲ定ム可キヤ即チ幾歳ニシテ之レガ目的ヲ決シテ可ナルカ假令幾歳ト斷然決スルコト能ハザルモ其何歳頃ニシテ之ヲ定ム可キモノナルヤト云フニ至テハ遠ニ以テ答フルコト能ハザル可シ思フニ此等ノ問題ニ至テハ天下全ク之ヲ黙々不問ニ附シタルコトヲ嗚呼唯ダ夫レ目的ヲ決ス可シ方向ヲ定ム可シト喋々スルモ其幾歳若クハ何年頃ニシテ之ヲ決定ス可キモノナリト云フコト論ゼザレバ漠然タル空説ニシテ未ダ以テ盡セリト云フ可ラズ又足レリト稱ス可ラザルナリ然ラバ則チ人ノ目的ハ幾歳若クハ何年頃ニシテ之ヲ確定シテ可ナラン乎乞フ之ヲ論ゼン

佛儒キソ希索氏言ヘルコトアリ曰ク人ノ心志ハ猶ホ其形骸ニ於ケルガゴトク日月ニ變化シ一年三百六十五日一日二十四

時間會テ同性情ヲ保ツ可キモノナラズト是レ稍々過言ニ似タルモノアリト雖モ亦多少斯ノ如キ勢ナキニシモ非ラザルガ如シ左レバコヤ七年ヲ經過セバ人ノ筋骨ハ全ク變化スルト云フノ説アルニ至レリ試ニ人類終身ノ希望ヲ窺ハンカ固ヨリ以テ人心ノ同シカラザル其面ノ如クナレバ敢テ之ヲ斷定ス可ラズト雖モ之ヲ概見スルニ幼時ニ在テハ其嗜好スル所ノモノ飴菓子若クハ珍奇美麗ナル玩弄物ニ在リテ存セリ此時ニ當テヤ其兒童ハ此等ノ物品ヲ鬻賣スル所ノ家ヲ欣羨シ口敢テ之ヲ發言スルニ至ラズト雖モ心中竊ニ我家ヲシテ此等ノ商業ヲ營ムモノダラシメンコトヲ希望スルヤ亦疑ナカル可シ然ルニ漸ク長シテ十歳前後ニ至ルヤ其嗜好モ亦自ラ一變シ紙鳶獨樂ヲ愛スルコトナラシ次第ニ年ヲ増シテ十五歳前後ニ及ブヤ心中亦其嗜好ヲ

一變シテ大ニ學問ノ希望ヲ起スニ至ル可シ斯クテ二十トナリ三十トナルニ隨ヒ漸次ニ其嗜好ヲ變轉ス可ク又四十トナリ五十トナルニ從ヒ又其欲望ヲ變更シ終ニ六十トナリ七十トナルニ及ビテハ念佛ノ信向ヲ起スコアル可シ其所謂嗜好ト云ヒ希望ト云フモノ皆ナ其目的ノ因テ以テ起ル所ノモノナレバ其目的ヲ定ムルノ年齢如何ニ由テハ大ニ其種類ヲ異ニシ又其利害ヲ別ツ可シ之ヲ要スルニ幼時ニ在テ早ク既ニ其目的ヲ定メバ必ズ價值ナキ賤業ヲ取ルニ至ルコナラン漸々長ズルニ從テ價值アル學術業務ヲ撰定スルヲ得ルニ至ル可シ即チ十有五ニシテ學ニ志シ三十ニシテ立チ四十ニシテ惑ハズ五十ニシテ天命ヲ知り六十ニシテ耳順ヒ七十ニシテ心ノ欲スル所ニ從テ矩ヲ踰エズ斯ノ如ク漸々成長スルニ從テ益々思慮熟シ以テ智識ヲ得

ルコナレバ此點ヨリ觀察チ下スキハ最モ年老イテ後目的ヲ定ムルヲ以テ可ナリトスルモノ、如シト雖モ斯クテハ今日目的ヲ定メテ明日黃泉ノ旅行ニ赴クノ憂ヒアルヲ免レザル可シ元來目的ナルモノハ甲半生中ニ之ヲ定メ且ツ其大半ヲ達シ以テ其甲半生ノ末ヨリ乙半生ノ全期即チ壯老ノ生計ヲ安全ニ營マンガ爲メ設クル所ノモノナレバ之レガ目的ヲ定ムルコトハ若壯ノ時ニ在ル可キコト固ヨリ既ニ定マレルコトナリトス然ラバ其目的ハ若壯ノ年中果シテ何レノ頃ニ於テ定ム可キヤ又宜シク之ヲ論究セザルベカラザルナリ

正則ニ完全ノ學問ヲ順次ニ講習スル者ハ小學及び中學ヲ終リテ後チ愈々大學ニ入り以テ專門ノ課業ニ就カント欲スル時ニ在テ始メテ其目的ヲ確定シ我レハ何學ヲ以テ身

立ント其方向ヲ決スルコトナリ左レバ其年齢ハ其人々ノ
 勤惰ニ由テ多少ノ變更アル可ケレバ敢テ何歳ト確定スル
 一能ハズ概シテ二十歳前後ノ年齢ニ在ランカ孰レニシテ
 モ其普通課ヲ終リテ専門學ニ入ラントスルノ時コソ正ニ
 是レ其目的ヲ確定スルノ時機ナリトス此點ニ於テハ世人
 未ダ之ヲ言フニ至ラズト雖モ其心中既ニ冥々裡ニ知了ス
 ル所ナル可シ然レモ此ノ如ク正則ニ完全ノ順序ヲ踏ムニ
 至ル者ハ百中ノ一二アルナク殆ンド千萬中ノ一二人ナル
 可ケレバ亦宜シク一般普通ノ青年學生即チ右正則ニ完全
 ノ順序ヲ踏ム一能ハザル者ノ目的ヲ定ムルノ時機ヲ講ゼ
 ザルベカラズ既ニ論ズルガ如ク其目的ヲ定ムルコト餘リ早キ
 ニ過グレバ則チ痴愚ナル方向ヲ決シ他日大ニ悔悟スルノ
 期アル可ク若シ又餘リ晚キニ失スレバ則チ其目的ノ成ル

ノ日ニハ既ニ白髮弓腰ト爲ルノ不本意アル可シ故ニ其過
 不及ナキ年齢コソ即チ其目的ヲ定ム可キノ時機ナリトス
 因テ思フニ小學ヲ終ルノ頃即チ十五歳位ニ至レバ其心志
 モ一先ヅ凝結スルノ時機ナレバ此時ヲ以テ其目的ヲ確定
 シ何學ナリ己レノ志ス所ノ學業ヲ專心勉勵ス可キナリ何
 時迄モ散漫ノ學問ハ以テ身ヲ立ツル所以ノ者ニ非ラズ偶
 マ以テ其身ヲ誤ルノ基トヅナリヌランカ尤モ他ニ職業ア
 リテ學問ハ交際ノ爲メ或ハ其身ノ光澤ヲ生ゼシメ以テ其
 心ヲ高尙ナラシメント欲スルニ在ル者ハ例外ナリトス又
 種々ノ事情アリテ正則完全ノ順序ヲ踏ム一能ハザル者ノ
 中天賦ノ智能非凡ニシテ且ツ文才アル者ノ如キハ散漫ノ
 學問モ亦隨分共ニ可ナリ是レ間ニ合セ記者ノ需用アレバ
 ナリ聊カ以テ青年學生ノ目的ヲ定ムルノ時機ヲ示スモノ

ナリ

本章ニ聊カ附記ヲ要スルコトアリ何ツヤ別事ニ非ラズ彼ノ
 巡回生徒ノコソゾアル抑モ屢々轉校スルノ害タルハ今更
 敢テ余輩ノ喋々ヲ要セザル所ナレトモ畢竟スルニ其學修ス
 可キ學校ノ目的定マラザルモノナリ夫レ目的定マラズシ
 テ天下亦何事ヲカ爲シ得ンヤ尤モ此ノ學校ノ目的ナルモ
 ノハ敢テ其年齡ノ如何ニ由テ決定ス可キニ非ラズ唯ダ其
 入學セント欲スルノ際能々其學校ノ規則學課授業法若ク
 ハ其教師ノ何人ナルヤ又ハ其學校ノ習慣ハ如何ト精密ノ
 觀察ヲ遂ゲテ而シテ後ニ入校ス可シ斯クテ既ニ一旦入校
 スル以上ハ已ムヲ得ザル事情アルニ非ラザレバ容易ニ轉
 校セザルノ決心ナカシラザルモノトス是レ學ヲ好ム者
 ノ所爲ナリ然ルニ當時青年學生ノ弊風トシテ動モスレバ

一〇風評一傳説ヲ信ジテ輕々轉校スルノ自在ナルコト下宿屋
 移轉スルハ同一比例ニ出ヅルハ如何ニモ痛歎ノ至リナ
 リ此ノ如ク朝ニ甲學校ニ入りテ夕ニ乙塾舎ニ轉ズルニ於
 テハ好シヤ其轉ズル所ノ乙塾舎善ナリト雖モ之レガ爲メ
 更ニ束修月謝ヲ納メ新ニ書籍ヲ求ムルノ重費ヲ要スルノ
 ミナラズ學課ノ屢々變更スルガ爲メ曩キニ甲學校ニ於テ
 講修セシ書籍ハ途中ニ廢シ又更ニ新書ノ學修ヲ始メ其學
 業未ダ終ラザルニ早ク既ニ又他校ニ轉ズ始終半途ノ學修
 ニシテ固ヨリ以テ其用ニ立ツベウモナシ好シヤ甲乙兩校
 同一書籍ヲ用ウルニモセヨ其校異ナレバ多少其授業法讀
 方モ亦從テ異ナラザルヲ得ズ是ニ於テ乎初學ノ輩ハ往々
 數月ノ光陰ヲ徒勞ニ屬セシメ更ニ新書ヲ講修スルノ想ヒ
 ナキ能ハザルモノアルニ至ル可シ嗚呼學校ハ慢遊場ニ非

評者志
往後してヤ

ラズ即チ青年子弟ノ學藝ヲ練磨シ其心術ヲ高尙ナラシム
ルノ教場ナリ青年學生ヨ夫レ記臆セヨ高尙ナル學校ヲ屢
々變轉スル者ハ學業ハ卑賤ナル塾舎チ動かズ專心勉勵ス
ルモノハ學業ニ若カザルヲ遙ニ遠遠ナルヲチ記臆セヨ是
レ最モ注目ス可キノ要點ナリ

○第五章 獨學者ノ爲メ聊カ其心得ヲ指點ス

天下ノ廣キ人員ノ多キ往々貧困ニシテ學校ニ通學スルヲ
能ハザル者アリ或ハ其資力アルモ校舍遠ク通學ニ便ナラ
ズシテ止ム者アリ或ハ其資力モアリ且ツ其校舍モ近シト
雖モ其身ノ雜務繁多ナルガ爲メ其志アリテ其學ニ就カザ
ル者アリ斯ノ如キ者甚ダ多キヲナラン然ラバ此等ノ者何
ンゾ夫レ獨學ヲ爲サザルヤ蓋シ之ヲ爲スヲ欲セザルニ非
ラズ其心之ヲ爲ス能ハザルモノト斷念スルモノナラン然

本
論

レモ余輩ヲ以テ之ヲ見レバ獨學ヲ爲スヲ敢テ能ハザルノ
業ニ非ラザル可シト信ズルナリ即チ余輩ノ如キ其講究ス
ル所ノ學ハ固ヨリ以テ高尙ナラザルモノト雖モ之ヲ研究
シタルハ全ク獨學ヲ以テ爲シ得タルモノニシテ敢テ世ノ
所謂活師ニ就キタルモノニ非ラザルナリ唯ダ幼時ニ在リ
テ寺小屋ノ教育即チいろは及ヒ一二三等ノ數字ヲ學ビ得
タルニ過ギズ其餘ハ字典先生ノ教授ヲ受ケタルノミ故ニ
聊カ以テ其經驗スル所ノモノヲ指點セントス
西人稱スルヲアリ曰クトビ〇二十六字ヲ知ラバ天下ニ學
ガ能ハザルハ學問ナシト夫レ然リ故ニ余輩モ亦將ニ云ハ
ントスいろは四十七文字ヲ知ラバ社會ニ學ブ能ハサル者
ナシト然ラバ何ヲ以テ此ノ僅々タル二十六字若クハ四十
七文字ヲ知り得タルノ力ヲ以テ天下萬般ノ學術ヲ講究ス

ルヲ得ルト爲スカ曰クハ〇二十六字いろは四十七文字ヲ知ラバ以テ字典先生ノ教授ヲ受クルノ學力ヲ具備スルモノト謂フ可シ既ニ此ノ學力ヲ具備セル以上ハ專心勉強ス可ク又々之ヲ永久ニ及ボシ敢テ半途ニシテ挫折スルヲナキ耐忍力ヲ要ス其間熟思百考苟モ其學理ヲ窮メザレバ以テ已マザルノ精神ヲカル可ラズ陽氣發スル處金石亦透ル精神一到何事カ成ラザラン之ヲ思ヒ之ヲ思フテ得ザレバ鬼神之ヲ教フ鬼神ノ力ニ非ラズ其精氣ノ極メナリ彼ノ世ノ所謂活師ノ教授ヲ受ケンニハ教師生徒兩者ノ時間都合同一時ニ其符節ヲ合セザレバ能ハズ即チ教師ノ方ニ於テ其時間都合善シト雖モ生徒ニシテ其時間都合惡シクシテ其教授ヲ受クルヲ能ハズ又其生徒ノ方ニ於テ其時間都合善シト雖モ教師ノ時間都合惡シキモ亦然リトス

檀越

然ルニ此ノ字典先生ノ極便至利ナルヤ生徒ノ時間都合ダニ善クシバ彼レ敢テ自家ノ時間都合ヲ云ハズ何時ニテモ其請ヒニ應ズ可ク假令三更ノ燈下若クハ五更ノ鷄鳴ヲ告グルノ時ト雖モ敢テ辭セズ喜悅ノ眉ヲ開キテ其ノ教授ヲ施スニ怠ラザル可シ且ツ夫レ彼ノ活師ノ許ニ通學スルニハ多少ノ里程ヲ歩行セザルヲ得ザルモ此ノ字典先生ハ恒久ノ備師ニシテ之レガ教授ヲ受クルヤ敢テ一步ヲ出ヅルヲ要セザルナリ嘻々此ノ極便至利ナル良教師ヲ備ヒ置キナガラ獨學スル能ハズトハ孟軻ノ所謂能ハザルニ非ラズ爲サバルナリ爲サバルトハ何ゾヤ勉強、耐忍、熟思ヲ爲サバナリ

次ギニ獨學者ニ對シテ要ス可キモノアリ何ゾヤ即チ天下ノ事業ハ皆ナ固ト難クシテ敢テ易シト云フモノナシ然レ

心ニ之ヲ思フニ於テヤ敢テ之ヲ難シト想フ可ラズ若シ
 夫レ之ヲ難シト想ヘバ必ズ其事業ニ吞マレ之ヲ成サント
 スル精神ノ勇氣ヲ奪ヒ去ラル可シ故ニ必ズ心ニ之ヲ易キ
 モノト見做ス可シ然レモ之ヲ求ムルニ至テハ敢テ之ヲ易
 キニ求ムルノ手段アル可ラズ若シ夫レ輕々ノ手段ヲ以テ
 着手セバ假令固ト易々タル事業ト雖モ決シテ成ル可ラズ
 好シヤ尙ホ成ルヲ得ルトスルモ其成ルヤ必ズ遅々タル
 牛行ノ如クナル可シ故ニ必ズ難キ手段ニ於テ之ヲ求ム可
 シ然ラバ則チ其固ト難キ事業モ亦必ズ案外ニ易ク成ル可
 シ是レ事業ヲ成ス者ノ自然ノ定則ナリ此事固ト一般普通
 ノ人ニ於テ要スルヲナリト雖モ至難ナル學問ヲ獨學ニ於
 テ試ミントスル者ノ最モ要スル所ナリトス今其一例ヲ
 サバ彼ノ蒸氣機關ナリ固ト煙霧ニ均シキ僅々タル湯氣

以テ泰山ヲモ貫ク可ク甲鐵艦ヲモ走ラス可ク諸種ノ器
 ヲモ運轉セシム可キモノニシテ數百年前ヨリ列國億兆
 人之ヲ發明センヲ想ヒ往々之ヲ實驗ニ試ムル者アリ
 政府ノ力ヲ以テ從事スルモ尙ホ且ツ之ヲ發明スルヲ能
 ハズ之レガ機關ヲ製造スルヲ能ハザルモノナレバ其物ノ
 難キヲ固ヨリ云フニシモ及バザル所ナリ然ルニ瓦徳ガ布
 衣ノ身ヲ以テ大膽ニモ單身之ヲ發明セント企テタルハ其
 心之ヲ易キニ見做シタルニ非ズシテ將タ何ゾヤ若シ夫レ
 之ヲ其物ノ本然ノ難キガ儘ニ難キモノト思惟シタルニ
 ハ到底之レヲ發明センナド、云フ勇氣ハ出デザル可シ然
 ルニ之ヲ發明セント企テタルハ之ヲ易キニ見做シタルヲ
 證スルニ足レリ然レモ之ヲ求ムルノ手段ニ於テハ敢テ輕
 々三五ノ月ノ間ニ之レガ成否ヲ決スルノ卒忽ヲ爲サズ十

有七年ノ其間恰モ一日ノ如ク全ク刻苦ト熟慮トヲ以テ經
 過シ造次顛沛其事ニ意ヲ注ガザルハナク殆ンド痴ナルガ
 如ク又狂セルガ如シ是レ其難キニ求メタルニ非ラズヤ嘻
 ヲ精神一到十年ノ後何事カ成ラザラン偶マ火鉢ニ懸ケシ
 土瓶ノ湯沸騰シテ其湯氣ノ蓋ヲ吹上グルヲ見テ忽チ悟ル
 所アリ匙ヲ以テ之ヲ試ムルニ果シテ其効驗ヲ得十有七年
 ノ刻苦ト熟慮トヲ茲ニ遂グルヲ得タル其嬉シサハ筆舌ノ
 能ク盡ス可キ所ナラズ欣喜雀躍手ノ舞ヒ足ノ踏ム所ヲ知
 ラザリケル是ニ於テ全ク其發明ヲ遂ゲタリ嗚呼斯ノ如キ
 大事業ノ一人一孤ノ獨力ヲ以テ成リタルハ是レ豈ニ其案
 外ニ易ク成リシニ非ラズシテ將タ何ゾヤ夫レ余輩ノ言ノ
 誣ヘザルヲ知ル可シ然ラバ瓦徳彼レ果シテ何者ゾヤ鬼神
 歟將タ天狗歟角アル者ハ余輩其牛タルヲ知リ鬣アル者ハ

今ノ語
 激語
 例ヲ仰ニ
 ルヤ

余輩其馬タルヲ知リ犬豕豺狼麋鹿余輩其犬豕豺狼麋鹿タ
 ルヲ知ル惟ダ鬼神ヤ天狗ハ知ル可ラズト雖モ十四元素ヲ
 以テ成ル所ノ大字形ナル者ハ余輩亦其人類タルヲ知ルナ
 リ余輩傳ニ於テ之ヲ聞ク瓦徳ハ二手二足二耳二目一鼻一
 口ヲ具ヘタル所ノ大字形ナル者ト聞ク既ニ然ラバ瓦徳彼
 レ決シテ鬼神ニ非ラズ又天狗ニ非ラズ正シク十四元素ヲ
 以テ成ル所ノ人類タルヤ疑ナシ去テ吾人ノ身體ヲ顧ルニ
 同シク二手二足二耳二目一鼻一口ヲ備ヘタル所ノ人類ナ
 リ然ラバ何ゾ夫レ彼レガ爲シ得タル事ノ如キモノ能ハザ
 ルノ理アラランヤ彼レモ人ナリ我モ人ナリ人間ノ爲シ得タ
 ルコトハ必ズ亦人間ニ爲シ得ラル可シ甲ノ能クスルコトハ乙
 モ亦之ヲ能クス可シ甲ノ能スル人ノ方法ヲ用非ナバ乙モ
 亦必ズ之レト同ジキ効驗ヲ得可シ其同ジキ方法トハ何ゾ

ヤ勉強耐忍熟思ナリ然ラハ瓦徳ハ何等ノ教師ニ就テカ其
 蒸涼機關ノ術ヲ學ビタルヤ即チ自己ニ就テ學ビタルナリ
 元來發明ト云フモノ獨學ニシテ師アルニ非ラズ若シ夫レ
 師アラハ發明ニ非ラザルナリ彼ノ至難ナル發明ニ於テス
 ラ尙ホ且ツ獨學ヲ以テ爲シ得ラル、ヲ以テ見レバ況ンヤ
 其發明ナラザル學問ニ於テチヤ結構獨學ヲ以テ爲シ得ラ
 ル可キ者トス左レバニヤ西諺ニ曰ク倣スニ難シト云フ語
 ハ吾ガ辭典中ニ在ラズト彼ノ拿破崙一世ハ讀書ノ際不能
 ノ二字ニ遇フ毎ニ喙ヲ尖ラシ是レ愚人ノ字書ニ見ユルノ
 ミト云ヒツ、モ筆ヲ以テ墨滅シタリト云フ其勇氣稱ス可
 シ其所爲嘉ス可シ是レ獨學者ノ最モ服膺ス可キモノトス
 獨學者ニ對シテ指教ス可キモノ尙ホ數多アリト雖モ限リ
 アル紙面ニ於テ詳細ノ論ヲ爲ス可キニ非ラザレバ余輩ハ

々

茲ニ本章ノ論局ヲ結バンニ聊カ獨修ヲ以テ文章ヲ作ラン
 ト欲スル者ニ向テ指示セントスルモノアリ何ツヤ他ナシ
 文章ヲ作ラント欲スル者ハ常ニ文章ヲ作ラン作ラント欲
 スルノ心ヲ以テ多ク書ヲ讀ミ其感觸スル所ノ金言玉句若
 シハ珍奇ノ史談ヲ夫々部門ヲ別テタル冊子ニ抄録シ置キ
 以テ深ク思慮ヲ凝ラシテ多ク作り二遍三遍數遍敢テ倦ム
 コナク之ヲ清書スルニ在リ然ラハ文章ノ妙處自ラ其熟ス
 ル所ニ顯ハレントス三寫スレバ則チ烏焉馬ノ誤チアリト
 云フト雖モ這ハ是レ他人ノ書ヲ寫スニ就テ云フモノニシテ
 自家ノ文章ヲ寫スニ於テハ三寫スレバ必ズ魯魚ノ校正ア
 リ故ニ初學ノ輩ノ作文ハ成ル可ク數遍清書スルヲ要ス
 他人ノ書ヲ讀ムニ於テモ亦然リ讀ムコ數百千卷ノ多キニ
 涉ルヲ善シトスト雖モ唯ダ無暗ニ多キヲノミ貪リテ輕々

看過スルニ於テハ大ニ不可ナリトス或人曰ク十枚ノ書ヲ見ル一遍スルハ五枚ノ書ヲ見ル二遍スルニ若カズ又五枚ノ書ヲ見ル二遍スルハ二枚半ノ書ヲ見ル四遍スルニ若カズ是レヨリ以テ又皆ナ此ハ如シト是レ最モ注目ヲ要ス可キ所ニシテ余輩ノ所謂多ク書ヲ讀ム可シト云フハ熟讀數遍ヲ經タル書ノ數重リテ多クノ書ニ渉ル可シト云フニ在リ故ニ其多ク書ヲ讀ム可シト云フ中ノ書ハ皆ナ熟讀ト云フノ意味ヲ含メルモノト解ス可シ但シ其書ノ種類如何ニ由リテハ或ハ一讀ヲ以テ足レルモノモアラン或ハ五閱十讀尙ホ足ラズシテ百閱千讀ヲ要ス可キモノモアラン其邊ハ自家ノ分別ニ在ラン余輩嘗テ言ヘルコトアリ曰ク不留意ハ百讀ハ留意ノ一讀ニ若カズト是レ亦最モ注意ヲ要ス可キ所ニシテ讀書ノ要ハ敢テ其遍數ノ多キニアラズシテ唯

マ留意注眼ニ在リ故ニ留意注眼シテ數遍閱讀セバ尙ホ善シトス

以上數件ノ心得ヲ知ラバ先ヅ以テ獨學ヲ爲スコト得ン耶然レモ又獨學ニ於テ全ク其目的ヲ達スル能ハザルモノナキニ非ラズ好シ假令皆ナ能ク之ヲ爲シ得ルトスルモ多クノ光陰ヲ消費セザルヲ得ザルノ場合アル可シ其ハ又彼ノ字典先生ノ外嘗テ東京學館ノ發明養成ニ係ハレル獨修書ノ良教師アリテ存スレバ之ヲモ備入レ字典先生ト併ビ奉シテ之レガ教授ヲ受ケバ活師ニ就クト其効驗毫モ異ナルコトナク天下萬般ノ學問一トシテ成ラザルモノナカル可シ然ラバ憂フルコト勿レ貧困ニシテ學校ニ通學スルコト能ハザルヲ憂フルコト勿レ又患フルコト勿レ其資力アルモ校舍遠ク通學ニ便ナラザルヲ患フルコト勿レ又歎ズルコト勿レ其資力

モアリ且ツ其校舍モ近シト雖モ其身ノ雜務繁多ナルガ爲
メ其學校ニ行クヲ能ハザルヲ歎ズルヲ勿レ

⊗第六章 竹學生ト爲レ筍學生ト爲ル勿レ

人ハ譬ヘバ猶ホ桃梨ノゴトシ彼ノ桃梨ヲ細カニ分析スレ
バ則チ木ハ親ニシテ花ハ小兒ナリ而シテ實ハ成人ニシテ
葉ハ髮ナリ又枝ハ手ニシテ根ハ足皮ハ衣ナリ然ルニ花落
チテ而シテ後實ルモ此時ハ即チ二十歳前後ノ少年ナリ然
ラバ既ニ實ヲ結ブトハ云フ者ノ是レ未熟ニシテ既熟ニ非
ラザルナリ然ルチ此理ヲ知ラザル者ハ既ニ果ヲ結ビシト
テ遽ニ以テ金ヲ得ント欲シテ之ヲ賣却スルハ愚モ亦甚ダ
シト謂フ可シ試ニ思ヘ此ノ如クセバ其金ヲ得ルヲ少シク
早シト雖モ其金タルヤ既熟實ノ半價ニダモ至ラザル可シ
且ツ又其種ヨリ萌芽ヲ生シテ己レ父ト成ルノ日來ルモ到

底善木ト成ルヲ能ハザル可シ故ニ桃梨ノ性ヲ能ク知ル者
ハ必ズ既熟ヲ待テ而シテ後之ヲ取テ賣却スルヲ常トス人
類モ亦然リ二十歳前後ニシテ既ニ稍々實ヲ結ビシトテ遽
ニ以テ之ヲ官沽スルハ未熟ノ早賣到底高價ノ人タルヲ能
ハズシテ終ルハ如何ニモ痛歎ノ至リナリ豈ニ夫レ察セザ
ル可ケンヤ

且ツ之ヲ竹筍ニ譬ヘンカ其筍タルノ時ニ於テ之ヲ賣却セ
バ其金ヲ得ルノ時ヤ少シク早シト雖モ之レガ爲メ最早竹
ト成ルノ望ミナシ故ニ到底其良價ヲ得ルノ期ナキモノト
ス青年學生ノ身上何ヲ以テ之ニ異ナランヤ既ニ數卷ノ
書ヲ見レバ則チ其佛蘭格林ノ周旋次第ニテ官海ニ入ルヲ
チ得可シ然レモ此時ヤ未ダ竹タルノ時機ニ至ラズ尙ホ筍
タルノ境界ニアルモノナレバ假令僥倖ヲ得ルト雖モ畢竟

竹ハ筍タルニ相違ナケレバ到底其筍タルノ價值ヲ登ラズ
誤テ竹ノ價值ヲ得ルヲナカル可シ即チComma以下ノ官吏ハ
畢竟Comma以下ノ官吏ニシテ終リ到底Comma以上ノ官吏タ
ルヲ能ハザル可シ故ニ少シク金ヲ得ルノ時ハ晩シト雖モ
其竹ト爲ル既熟ノ時ヲ待テ之ヲ沽ラバ以テ高給ヲ得可シ
然ルチ之ヲ待ツヲ能ハズシテ早ク既ニ其筍タルノ時ニ於
テ之ヲ賣却スルハ豈ニ亦愚ナラズヤ
然リト雖モ貧生ニシテ其既熟ノ時ヲ待ツヲ能ハザル者ア
ル可シ是レ已ムヲ得ザルモノニシテ其未熟ノ時ニシテ早
ク既ニ之ヲ沽ルモ亦可ナリ然レモ其精神マデチモ併セテ
沽ルヲアル可ラズ若シ之ヲ沽ラザレバ其筍タルノ時ニ於
テ早ク既ニ其身體技藝ヲ沽ルモ未ダ其根ヲ賣ラザルモノ
ナレバ竹ト成ルノ望ミナキニシモ非ラズ或ハ復タ萌芽ヲ

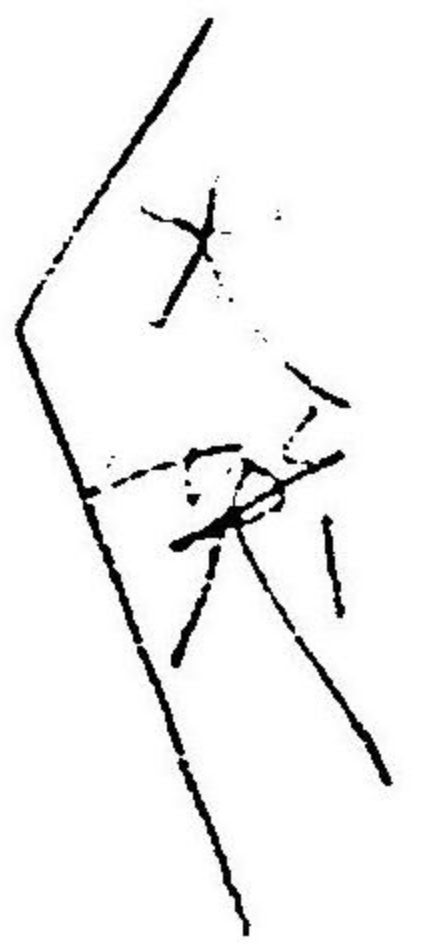
生シテ竹ト成ルノ期アル可シ然ルチ若シ其身體技藝ヲ沽
ルト俱ニ其精神マデチモ併セテ沽ルニ於テハ再ビ萌芽ヲ
生シテ竹ト成ルノ期アル可ラズ是レ青年學生ノ最モ注目
ヲ要ス可キ所ニシテ動モスレバ其身體技藝ヲ沽ルト俱ニ
其精神マデチモ併セテ沽ルニ至ルノ弊アルチ免レザルモ
ノナリ左レバニヤ古人モ亦目前ノ小利ヲ謀ルハ大利ノ害
ナリト云ハレタルニ非ラズヤ豈ニ夫レ察セザル可ケンヤ
乞フ學生諸君ヨ竹學生ト爲レ決シテ筍學生ト爲ル勿レ若
シ已ムヲ得ザルハ事情ニ於テ筍學生ト爲ルモ其根タル精
神ヲ沽ル勿レ

○第七章 學問偏ス可キ者アリ又偏ス可ラザル者アリ

學問ハ偏ス可キモノナル歟將タ偏ス可ラザルモノナル歟

世人或ハ偏ス可キモノト云ヒ或ハ偏ス可ラザルモノト云フ其論ズル所全ク氷炭ノ相容レザルガ如シ其偏ス可キモノト爲ス者ハ論シテ曰ク凡ソ天下ノ事物皆ナ分業ニ依テ以テ其精ヲ得ルモノニシテ特ニ學問ノ如キハ百科ノ種類アリテ到底限リアル人命ヲ以テ限リナキ百科ノ學問ヲ研究スルコト能ハズ故ニ何レカ其一方ニ偏セザルヲ得ズ若シ偏スルコトナカラントセバ日モ亦足ラザルコトニテ到底能クスキコトナラズ然ルチ之ヲ偏スルコトナク散漫ノ學問スルハ愚モ亦甚ダシト謂フ可シ是ノ故ニ野蠻國ニハ分業ノ法行ハレズト雖モ文明國ニハ分業ノ法大ニ行ハレ殆ンド分ツ可ラザルモノヲモ分ツテ之レガ業ヲ取ルニ足レリ云々……ト又其偏ス可ラズト爲ス者ハ論シテ曰ク大約學問ノ道ハ藝ヲ治ムルガ如シ其粹然タルモノヲ選デ之ヲ取ルチ以テ善

シトス若シ吾レハ某ノ學吾レハ某ノ派ト云フガ如キハ則チ博學審問ノ道ニ非ラズ凡ソ學派ニ偏スルモノハ己レノ學派アルチ知リテ眞理アルチ知ラズ左レバニヤ一個ノ論題起ルニ會スルヤ己レハ方ニ道理ノ在ラントチ欲シテ道理ノ方ニ己レノ身ヲ置カントスルチ欲セザル者比々皆ナ然リ故ニ學問ハ決シテ其一方ニ偏スルコトアル可ラズ云々……ト是レ畢竟其一面ヲ見テ他ノ一面ヲ見ザルノ爭論ナリ即チ學問ニハ固ト偏ス可キモノト偏ス可ラザルモノトノ別アリテ存スルチ知ラザルニ座スルノミ昔者羅馬ニ一ノ神祠アリ祠前ニ寶金ヲ以テ作ル紀功牌ヲ掲グ偶々兩騎士アリ來リ過ク其東ヨリ來リシ者其紀功牌ヲ指シ曰ク是レ白銀ナリト其西ヨリ來リシ者曰ク否チ黃金ナリト遂ニ忿争シテ馬上ニ相搏チ氣絶シテ地ニ墜ツルニ至ル然ルニ



改訂ノ新編ノ爲メ
再考ノ所ナリ
評ニ
改訂ノ新編ノ爲メ
再考ノ所ナリ

何ゾ知ラン其紀功牌ハ其表面ヲ黄金ニシテ其裏面ヲ白銀ニセシモノナラントハ嗚呼世ノ爭論多クハ此ノ類タルチ免レズ即チ今學問偏ス可シ否ナ偏ス可ラズト論争スルモノ、如キ其一ニシテ殆ンド笑止ノ至リナリ乞フ左ニ其偏ス可キモノト偏ス可ラザルモノアルチ指示セシ
 日ク政治、法律、修身、經濟、窮理、化學、醫術、數學、簿記、哲學、統計、天文、植物、鑛山、心理等其種類ノ分ツ可キモノハ宜シク其人々ノ好ム所ニ偏スベシ是レ所謂專門學ノ因テ起ル所ノモノニシテ若シ之レヲシモ偏セズンバ終身一モ成ル所ナク碌々トシテ過グルコトナラン支那ノ先哲言ヘルコトアリ二願遂ニ成ラズト又西諺ニ稱スラク二兎ヲ逐フ者ハ一兎ヲモ得ズト夫レ皆ナ之ヲ謂フナリ然レモ初メヨリシテ偏スルハ大ニ不可ナリ初メ先ヅ大略普通學ヲ講シテ而シテ後其人々

ノ好ム所若クハ其資力ノ及バン點ヲ精査シ以テ其一方ニ偏ス可キコトナリ右ハ學問ノ偏ス可キモノナレモ左ニ掲グル所ノモノハ學問ノ偏ス可ラザルモノナリ即チ和、漢、歐、米、孔、老、揚、墨、申、韓是レ決シテ偏ス可ラズ若シ之ヲ偏スルニ於テハ其人ノ言フ所常ニ其學派ノ爲メニシテ敢テ眞理ノ爲メニ非ラザルノ情勢弊害ニ陥リ敢テ聞クニ足ラザモノト爲ラザルチ得ズ其弊害ノ極メ終ニ自派ノ學說ハ非ナルモノモ尙ホ且ツ之ヲ保維センコトヲ務メ反對派ノ學說ハ是ナルコト己レノ心中既ニ之ヲ知ルト雖モ尙ホ且ツ之ヲ攻撃スルノ偏癖ニ至ル可シ豈ニ夫レ察セザル可ケンヤ他山ノ石ヲ以テ玉ヲ磨ク可ク眞理ハ異說百出ノ間ニ顯ルト云フト雖モ這ハ是レ彼ノ學派ノ異同ヲ云フニ非ラズ即チ敢テ學派ノ自他ヲ問フコトナク道理上斯クアル可シト確心スル一己ノ

腦中ヨリ湧出シタル新見ヲ云フモノニシテ此新見ヲ以テ
曩キニ現レタル公論通説ト切磋琢磨シ以テ真理ヲ叩出スル
モノナリ是レ即チ其論争スル所ノ要點眞理ニ在ルナリ然
ルニ彼ノ學派ノ奴隸輩ノ論争スル所ノ要點ハ黨派ニ在リ
テ敢テ眞理ニアラザルナリ豈ニ夫レ玉石混交ス可ケンヤ

○第八章 讀書ノ心得數件ヲ指教ス

學生諸君ノ書ヲ讀ムニ當リ心得可キノ條件數個アリ之ヲ
知ラバ以テ其進步早カル可ク之ヲ知ラザレバ以テ其進步
遅カル可シ故ニ其心得ハ必ズ常ニ之ヲ服膺シ苟モ之ヲ忽
ニス可ラザルナリ蓋シ之ヲ精査シタランニハ或ハ其心得
數十百件アル可シト雖ニ限リアル紙面ヲ以テ其詳細ヲ舉
グ可キコトハ固ヨリ能ハザル所ナレバ差當リ腦中感觸スル
所ノモノ數件ヲ舉示セント欲スルナリ

金言

一、

第一、讀書スルキハ決シテ他ノ事物ヲ聞見思想スルコトナク
心ノ注ギ眼ノ赴ク所唯ダ其書籍ノ一面ニ在ラシム可シ若
シ忽然トシテ他ノ想像ノ浮ミ來リシキハ斷然其讀書ヲ廢シ
其想像ヲ心中ニ畫キ了リ心裏ヲ洗滌シ慮心平氣トナルニ
及ビテ後チ再ビ其讀書ニ從事ス可シ其間若シ他人傍ニ在
リテ談話スルモノ我ガ耳ニ入リテ讀書ノ思想ヲ混ズルコ
アルキハ兩掌ヲ以テ左右ノ耳穴ヲ蓋ヒ少シク音聲ヲ張揚
ゲテ讀ム可シ然ラバ他ノ談話ノ我ガ耳朶ニ入ルヲ防ギ得
テ其讀書ノ思想ヲ害セラル、ノ憂ヒナカル可シ然ルチ若
シ他ノ事物ヲ聞見思想シツ、讀書セバ其書ヲ見テ視エズ
其書ヲ讀テ其意味ヲ知ラザル可シ前章既ニ論ズル不留意
ハ百讀ハ留意ハ一讀ニ若カズト云ヘルハ之レガ爲メナリ
又一言ヲ添ヘンカ曰ク不留意ノ遲讀ハ留意ノ早讀ニ若カ

腦中ヨリ湧出シタル新見ヲ云フモノニシテ此新見ヲ以テ
曩キニ現レタル公論通説ト切磋琢磨シ以テ真理ヲ叩出スル
モノナリ是レ即チ其論争スル所ノ要點眞理ニ在ルナリ然
ルニ彼ノ學派ノ奴隸輩ノ論争スル所ノ要點ハ黨派ニ在リ
テ敢テ眞理ニアラザルナリ豈ニ夫レ玉石混交ス可ケンヤ

○第八章 讀書ノ心得數件ヲ指教ス

學生諸君ノ書ヲ讀ムニ當リ心得可キノ條件數個アリ之ヲ
知ラバ以テ其進步早カル可ク之ヲ知ラザレバ以テ其進步
遅カル可シ故ニ其心得ハ必ズ常ニ之ヲ服膺シ苟モ之ヲ忽
ニス可ラザルナリ蓋シ之ヲ精査シタランニハ或ハ其心得
數十百件アル可シト雖モ限リアル紙面ヲ以テ其詳細ヲ舉
グ可キトハ固ヨリ能ハザル所ナレバ差當リ腦中感觸スル
所ノモノ數件ヲ舉示セント欲スルナリ

金言試

三三三

第一、讀書スルキハ決シテ他ノ事物ヲ聞見思想スルコトナク
心ノ注ギ眼ノ赴ク所唯ダ其書籍ノ一面ニ在ラシム可シ若
シ忽然トシテ他ノ想像ノ浮ミ來リシキハ斷然其讀書ヲ廢シ
其想像ヲ心中ニ畫キ了リ心裏ヲ洗滌シ慮心平氣トナルニ
及ビテ後チ再ビ其讀書ニ從事ス可シ其間若シ他人傍ニ在
リテ談話スルモノ我ガ耳ニ入リテ讀書ノ思想ヲ混ズルコ
アルキハ兩掌ヲ以テ左右ノ耳穴ヲ蓋ヒ少シク音聲ヲ張揚
ゲテ讀ム可シ然ラバ他ノ談話ノ我ガ耳朶ニ入ルヲ防ギ得
テ其讀書ノ思想ヲ害セラル、ノ憂ヒナカル可シ然ルチ若
シ他ノ事物ヲ聞見思想シツ、讀書セバ其書ヲ見テ視ユズ
其書ヲ讀テ其意味ヲ知ラザル可シ前章既ニ論ズル不留意
ハ百讀ハ留意ハ一讀ニ若カズト云ヘルハ之レガ爲メナリ
又一言ヲ添ヘンカ曰ク不留意ノ遲讀ハ留意ノ早讀ニ若カ

ズト

第二、書ヲ見ルニ當リテハ天下ノ書ハ悉皆同等ノ人ノ著述
 セルモノト見倣シテ之ヲ見ル可シ然ラザレバ書ヲ見ル
 コナラズシテ人ヲ見ルコトニナルナリ試ニ尋常一般ノ書生
 ガ書ヲ見ルト感情ヲ窺ハシニ彌爾、斯邊撒ノ論說ヲ見ル
 キハ未ダ其内ヲ見ザルニ先チ是レ有名ナル碩儒ノ著作ナ
 レバ蓋シ善美ナラント心中豫メ其善美ナラントチ定メテ
 讀書ニ掛ルヲ以テ其先入主トナリ章トシテ善ナラザルナ
 シ又句トシテ美ナラザルナク善美至レリ矣盡セリ矣ト拍
 手喝采以テ閱了シ其閱了ノ後モ何トナク感歎極リテ殆ン
 ド醉ヘルガ如ク又狂セルガ如ク著者ヲ以テ鬼神ノ化現カ
 ト疑ハシムルニ至ルモノナリ然レモ彼等ト雖モ神ナラヌ
 身ニシアレバ固ヨリ過誤ナキヲ保シ難シ若シ虚心平氣ヲ

先チ見ル
 後始メテ起ル
 其論旨ヲ知了セ

以テ之ヲ閱讀シタラシニハ往々瑕瑾モアリ缺典モアルコ
 ナラン又眼チ一轉シテ學生諸君ガ未ダ姓名ヲダニ知ラレ
 ザル人ノ著書ヲ見ルヤ之ヲ繙シニ先チ是レ必ズ見ルニ足
 ラザルモノナラント心中既ニ之ヲ見下シテ掛ルヲ以テ徹
 頭徹尾愚論凡説ト思惟セラレザルモノナシ其間多少新奇
 ノ妙案モアル可キニ眼中既ニ其書ナク其新奇ノ妙案チモ
 輕々看過シ去テ一モ記憶スル者ナカル可シ此等ノ讀書ニ
 於テハ蓋シ其閱了後唯其面白クアラザリシチ記憶スルマ
 デニテ其論旨ノ如何ハ記憶スルコトナキチ常トスルモノハ
 如シ然レモ其真ニ面白クナシト感觸スルモノハ其論旨チ
 知了シテ後始メテ起ルモノナル可シ故ニ其論旨チ知了セ
 ザル者ハ實ハ其論旨ノ面白キヤ否ヤハ未ダ以テ判知スル
 コト能ハザルモノトス斯ノ如ク夫レ碩儒ノ著述セルモノト

思惟セルモ其正シキヲ得ズ又其賤劣ナル者ノ著作セルモ
 ノト思惟スルモ其正シキヲ得ズ故ニ天下ノ論說著書ハ悉
 皆同等ノ人ノ書ケルモノト思惟シテ之ヲ閱讀ス可シ然ラ
 バ其著者ノ人物ノ爲メ道理ヲ判定スル自己ノ腦力ヲ妨ゲ
 ラル、ノ憂ヒナク必ズ其具是真非ヲ判斷スルヲ得可シ
 第三、一書ヲ讀ミ畢ラザレバ決シテ他書ヲ讀ミ起ス可ラズ
 既ニ一書讀ミ畢ルト雖モ書中ノ意義ヲ悉ク領略セザルウ
 チハ決シテ他書ヲ思想ス可ラズ手ニ信セテ書ヲ翻シ此處ヲ
 讀ミ彼處ヲ看ルヲ其弊害擧ゲテ言フ可ラズ抑モ一時ニ幾
 種ノ書ヲ看ルハ心思ヲ衰弱セシムルモノナリ睡臥ニ優ル
 一幾許モナク唯ダ纒ニ一髮ノ間ニ在ルノミ讀書ノ散漫ナ
 ルハ懶惰中ノ最モ甚ダシキモノナリ人ヲシテ勢力ヲ失ハシ
 ムルモノ焉レヨリ甚ダシキハ莫シ左レバニヤ有名ナルハバ巴哈

的、斯邊撒氏ノ父嘗テ人ニ語テ云ヘルヲアリ余兒ニ教フル
 他術ナシ唯ダ盡ク一書ヲ解了スルノ後ニ非ラザレバ乃チ
 他書ヲ與ヘザルノミ其他敢テ世ノ教育ト異ナルモノナシ
 ト蓋シ此ノ教育法其宜シキヲ得テ以テ絶世ノ大儒ヲ作出
 シタルモノナリ後ノ學生タル者夫レ宜シク鑑ムベキナリ
 第四、社會ノ事物瑕瑾有ルモノ未ダ必ズシモ賤シカラズ其
 瑕瑾無キモノ未ダ必ズシモ貴カラズ故ニ珊瑚樹ハ瑕瑾有
 ルモ亦其珊瑚樹タルノ價值ヲ失ハズ練玉ハ瑕瑾無キモ亦
 其練玉タルノ價值ヲ登ラズ此理著書ノ間ニ見ル可キモノ
 往々之レアレバ讀者ハ其瑕瑾有ルガ爲メニ良書ヲ失フ
 勿レ又其瑕瑾無キガ爲メニ愚書ヲ重ク過グルヲ勿レ之
 チ要スルニ先ヅ某書ハ價值アルヤ否ヤヲ問ヒ而シテ後其
 瑕瑾ノ有無多少ヲ云フ可キヲナリ是レ讀者ノ最モ緊要ノ

心得ナリトス豈ニ夫レ忽セニス可ケンヤ
 第五洋書ハ全篇ニ得ル所多クシテ章句ニ得ル所少ク漢
 籍ハ章句ニ採ル所多クシテ全篇ニ採ル所少ナシ蓋シ洋書
 ハ即チ一種ノ用術ニシテ其用專ラ實用ニ適セシメント欲
 スルニ在リテ存シ敢テ美術トシ心目ヲ娛樂セシムルモノ
 ニ非ラザルニ似タリ然ルニ漢籍ハ即チ一種ノ美術ニシテ
 其利專ラ人ノ心目ヲ娛樂セシムルニ在リテ存シ敢テ實用
 ニ適セザルモノ、如シ此心得以テ漢洋ノ書籍ヲ閱讀セバ
 其得ル所頗ル多クシテ極リナカラシ
 余輩每章人ノ言ヲ去テ鬼ノ言ヲ論呈スルト斯ノ如シ余輩
 常ニ信ズ公論ノ燒直ハ癡說ノ新見ニ若カズト是レ余輩ガ
 務メテ鬼ノ言ヲ論呈スル所以ノ本意ナリ蓋シ燒直論ヲ百
 枚見ルノ裨益ハ新見說ノ一枚ヲ讀ムノ裨益ニ若カズ本書

僅々數十ペーシノ間ニ論局ヲ結ブト雖ヒ之ヲ閱讀スルノ
 裨益ハ彼ノ燒直論ノ數千ペーシヲ見ルニ下ラザル可ク以
 テ大ニ其處身ノ法ヲ得ンカ讀者ハ讀テ茲ニ至ラハ本書ノ
 鬼語、先入ノ舊說ト衝突シ以テ腦中大ニ自戰ヲ生ズルナ
 ラン其戰局果シテ孰レカ勝利ヲ得可キ耶



學生之燈終

此冊書之竹筒書其手之成久也
世之入中一三三多付此書世に
傳ふ也
此書之書人其力

此書漢書曰

24

1

299

大日本教育會館
函架號册
二五
一册

特26

334

049041-000-8

特26-334

学生之燈

宮武 南海 / 著

M20

BEK-0024



